

1978年(昭和53年)度 リーブス球団 今年の出来事・来季への展望 (全1試合)

日付	曜日	出来事
1) 7月22日	(土)	創部メンバー: 高山監督、寺田選手、大久保選手、山下(雅)選手、富坂選手。
2) 7月22日	(土)	球団創設第1戦。尼崎西高校 対ニューオリентエクスプレス戦はメンバーより応援団の方がはるかに多く、盛大な応援にもかかわらず4対8で敗戦。初試合と言うことで、試合前の練習から張り切り過ぎて試合が始まった時には、もう全員くたくたであった。

項目	展望
来季の試合予定	
遠征	

1978年(創部1年目シーズン)

1979年(昭和54年)度 リーブス球団 今年の出来事・来季への展望 (全1試合)

日付	曜日	出来事
1) 10月10日 (水)		熊谷選手入団。
2) 10月10日 (水)		大阪城公園 対ジャパン戦 球団創設初試合から1年間のブランクをおいての第2戦目。一種のお祭り気分であった。山下(雅)選手レフトフェンス越えのフライを追いかけて、金網フェンスの金具ボルトに激突。左膝頭を強打し、救急車で運ばれ3針縫う。ボールに対する執着心旺盛であった。

項目	展望
来季の試合予定	
遠征	

1979年(創部2年目シーズン)

1980年(昭和55年)度 リーブス球団 今年の出来事・来季への展望 (全2試合)

日付	曜日	出来事
1)	5月	横山選手入団。
2)	5月	織物商グラウンド 対富士海外戦 8対7で球団創設3年目にして初勝利。樟葉駅前の炉端店にて盛大なる打ち上げ。飲み過ぎた高山監督が自宅の2階から小便をして、母親に叱られる。
3)	8月9日 (土)	三橋選手入団。以後、4番サードとしてリーブスを引っ張る。
4)	8月9日 (土)	森(秀)選手入団。
5)		初勝利までに2試合行ったが、記録、記憶共になし。

項目	展望
来季の試合予定	
遠征	

1980年(創部3年目シーズン)

1978年創部
リーブス球団

1981年(昭和56年)度 リーブス球団 今年の出来事・来季への展望 (全2試合)

日付	曜日	出来事
----	----	-----

1)		主戦力となる投手の不在で、寝屋川高校硬式野球部の河田君を助っ人として、投手に起用するも連敗。
----	--	------------------------------------------------

項目	展望
----	----

来季の試合予定	
遠征	

1981年(創部4年目シーズン)

1982年(昭和57年)度 リーブス球団 今年の出来事・来季への展望 (全7試合)

日付	曜日	出来事
1) 4月24日	(土)	横井(均)選手、原選手入団。以後、三遊間コンビとして活躍。
2) 5月29日	(土)	難波選手、尾形選手、中嶋選手入団。
3) 5月29日	(土)	猪名川公園 対ニュー国際戦 二塁手熊谷がピッチャーを志願。蠅の止まるようなスローカーブを主体に、安定したピッチングを披露し、球団通算2勝目をもたらす。
4) 6月6日	(日)	山下(仁)選手入団。
5) 6月6日	(日)	仁川学院中学 対ジャパン戦 13対3で勝利。熊谷投手がチームに念願の連勝をもたらす。
6) 11月15日	(月)	バット2本を購入。
7) 12月3日	(金)	大野屋旅館にて初の納会を挙げる。
8)		今季は強力メンバーの入団が相次ぎ、リーブス球団の第一次黄金時代の礎となった。新生リーブス球団、スタートの年。
9)		球団通算2勝目を挙げ、初の連勝も記録する。
10)		これまで年間1、2試合だったのが7試合と大きく増加。

項目	展望
来季の試合予定	
遠征	

1982年(創部5年目シーズン)

1983年(昭和58年)度 リーブス球団 今年の出来事・来季への展望 (全14試合)

日付	曜日	出来事
1)	1月	これまでのグレーからクリーム色のユニホームに新調。
2)	2月27日 (日)	沢地選手入団。
3)	3月27日 (日)	宮本選手入団。
4)	5月7日 (土)	名木選手入団。
5)	5月29日 (日)	バットケース購入。
6)	6月7日 (火)	リーブス球団事務所のゴム印を作製。
7)	6月11日 (土)	竹内選手入団。
8)	6月13日 (月)	ベース及びベースケース購入。
9)	8月20日 (土)	中野選手入団。
10)	11月3日 (木)	小田南公園 対ユアアイ戦 3対1で勝利。2年目のエース熊谷、後半戦破竹の6連勝もあり球団史上初の2桁勝利(最終成績:10勝2敗)達成。
11)	11月13日 (日)	田原選手入団。
12)	12月5日 (月)	馬隅巢にて第2回納会を盛大に挙行。
13)		リーブス球団飛躍の年となった。

項目	展望
来季の試合予定	
遠征	

1983年(創部6年目シーズン)

1984年(昭和59年)度 リーブス球団 今年の出来事・来季への展望 (全15試合)

日付	曜日	出来事
1) 1月28日	(土)	川路選手入団。
2) 2月1日	(水)	TRAVEL-BUSINESS 2月1日号に1月28日 江坂ベースボールスタジアム リーブス対オペレーターズ戦の取材記事が掲載される。
3) 2月6日	(月)	プロテクター購入。難波選手主導で、球団旗を作製。
4) 2月25日～2月27日	(土)～(月)	日本航空(中野選手、難波選手、沢地選手)と東急観光(宮本選手)の協賛により2泊3日の沖縄キャンプ。地元チームと2試合行う。 2月25日 沖縄南部農林高校 対沖縄コンピュータセンター戦 0対6で敗戦。 2月26日 沖縄水産高校 対沖縄ツーリスト戦 7対1で勝利。
5) 4月9日	(月)	TRAVEL JOURNAL 4月9日号にリーブスの対戦相手募集の記事が掲載される。
6) 6月		転勤のため中野選手退団。
7) 6月～12月		山下(雅)選手、大リーグ教育リーグ参加のためリーブスを離れる。
8)		山下(仁)選手の投手転向で投手力が強化される。山下(仁)5勝、熊谷4勝、大久保2勝。

項目	展望
来季の試合予定	
遠征	

1984年(創部7年目シーズン)

1985年(昭和60年)度 リーブス球団 今年の出来事・来季への展望 (全6試合)

日付	曜日	出来事
1) 12月7日	(土)	真里谷選手、松木選手入団。
2)		グラウンドの確保ができず、試合数が伸びなかった。

項目	展望
来季の試合予定	
遠征	

1985年(創部8年目シーズン)

1986年(昭和61年)度 リーブス球団 今年の出来事・来季への展望 (全15試合)

日付	曜日	出来事
1)	1月19日 (日)	岸本選手入団。
2)	3月2日 (日)	永原選手入団。
3)	4月12日 (土)	キャッチャーミットを購入。
4)	6月14日 (土)	球団事務所移転。
5)	6月21日 (土)	辻井選手入団。
6)	6月30日 (月)	ポータブルクーラー購入。
7)	7月5日～7月6日 (土)～(日)	小豆島にて夏期ミニキャンプ。砂浜での特訓を受ける。松木選手がろっ骨を数本折るほどの激しいものであった。
8)	7月19日 (土)	戸谷選手入団。
9)	9月19日 (金)	大阪市内地図購入。
10)	12月10日 (水)	ダ・カーポにて納会及び難波選手の送別会。難波選手は、古葉監督の要請で横浜大洋ホエールズの打撃コーチに就任。

項目	展望
来季の試合予定	
遠征	

1986年(創部9年目シーズン)

1987年(昭和62年)度 リーブス球団 今年の出来事・来季への展望 (全21試合)

日付	曜日	出来事
1) 1月11日	(日)	桜井選手入団。
2) 10月30日	(金)	沢地選手の送別会をスナック幌にて行う。沢地選手は、リーブス球団の極東支部の支配人として、高山監督の任命を受けて香港へ赴任。
3) 10月30日	(金)	沢地選手の後任として、笹部選手入団。
4) 12月4日	(金)	中川選手、倉崎選手入団。

項目	展望
来季の試合予定	
遠征	

1987年(創部10年目シーズン)

1988年(昭和63年)度 リーブス球団 今年の出来事・来季への展望 (全25試合)

日付	曜日	出来事
1) 1月24日	(日)	伊藤選手入団。
2) 3月21日	(月)	室選手、和田選手入団。
3) 4月16日	(土)	園田 対トラジャル戦を最後に横井(均)選手シンガポールへ派遣。リーブス極東事務所シンガポール出張所開設のため。
4) 4月23日	(土)	佐々木選手入団。
5) 10月22日	(土)	円藤選手入団。

項目	展望
来季の試合予定	
遠征	

1988年(創部11年目シーズン)

1989年(昭和64年・平成元年)度 リーブス球団 今年の出来事・来季への展望 (全29試合)

日付	曜日	出来事
1) 2月19日	(日)	中川選手結婚。
2) 3月11日	(土)	園田 対ガッツ戦との開幕戦直後、電撃トレードで円藤選手名古屋へ。クリーンアップの一角を期待されていただけに残念。
3) 5月20日	(土)	岡崎選手入団。小田南公園 対JTS戦 ドRAFT外で獲得の岡崎選手が騒々しくデビュー。後半戦の立役者の一人。
4) 10月15日	(日)	和田選手結婚。
5) 10月28日	(土)	元永選手入団。
6) 10月28日	(土)	園田 対トラジャル戦を最後に俊足・好打・好守を誇った笹部選手が東京へ転勤。
7) 11月4日	(土)	桜井選手結婚。

項目	展望
来季の試合予定	
遠征	

1989年(創部12年目シーズン)

1990年(平成2年)度 リーブス球団 今年の出来事・来季への展望 (全24試合)

日付	曜日	出来事
1) 3月24日	(土)	酒井選手、内田選手入団。
2) 5月6日	(日)	杉原選手入団。阪神から金銭トレードにて獲得。
3) 7月21日	(土)	大川選手入団。
4) 8月18日	(土)	片渕選手入団。
5) 8月25日～8月26日	(土)～(日)	小浜遠征。小浜中学 対若狭センターズ戦 3対4で残念ながら惜敗。来年も行きたいと思います。
6) 9月1日	(土)	丸山選手、河野選手入団。
7) 9月8日	(土)	三浦選手入団。42歳と高齢のため、戦力外でオリックスを任意退団。高山監督が引き取る。
8) 10月13日	(土)	岡崎選手結婚。

項目	展望
来季の試合予定	
遠征	

1990年(創部13年目シーズン)

1991年(平成3年)度 リーブス球団 今年の出来事・来季への展望 (全35試合)

日付	曜日	出来事
1) 1月17日	(木)	多国籍軍のイラク空爆開始により湾岸戦争勃発。
2) 3月9日～4月6日	(土)～(土)	開幕戦後、5試合連続雨天中止。
3) 5月11日	(土)	樋口選手入団。
4) 6月3日	(月)	雲仙普賢岳で大規模な噴火。
5) 7月20日	(土)	近藤選手、石谷選手入団。
6) 7月20日	(土)	西宮厚生年金 対オペレーターズ戦 新入団の石谷選手、球団史上初の初試合、初打席、初球柵越えスリーランホームラン。
7) 7月27日～7月28日	(土)～(日)	小浜遠征。あいにくの雨で試合は中止。
8) 8月4日	(日)	小寺選手入団。
9) 9月21日	(土)	園田 対オペレーターズ戦 1984年1月28日の初対戦以来負けなしのオペレーターズに初めて敗れる。関西の草野球界で大変な話題となる。
10) 9月28日	(月)	球団史上2度目のダブルヘッダーを行う。
11) 10月13日	(日)	小田南公園 対AAS戦 当日欠席者3名(うち1名は連絡あり、2名は連絡なし)、遅刻者2名。それぞれ30分～1時間遅れ(それも球団側から連絡して、やっと来てもらった状態)。12名の予定が、試合開始時はわずか7名の惨めな状態。初対戦の相手に対して、申し訳ないのと同時に球団事務所としても、非常にがっかりした一日でした。
12) 10月19日	(土)	当日の1試合目、園田(15～17時) 対芳生グラビア戦にて、球団史上初の年間30試合を達成。
13) 10月28日	(月)	西武対広島の日本文学シリーズは4勝3敗で西武が日本一になる。
14) 10月28日(現地時間27日)	(月)	ツインズ対ブレーブスのワールドシリーズは4勝3敗でツインズが世界一になる。前年は両チームとも最下位。
15) 11月23日	(土)	小田南公園 対ワイルドボアーズ戦 最終戦を5対4で勝利し、勝投手となった宮本投手が球団史上2人目の2桁勝利達成。
16) 11月30日	(土)	初の紅白戦を行う。枯葉リーブスと若葉リーブスで対戦し、6対18で若葉リーブスが勝利。

項目	展望
来季の試合予定	今季は35試合を消化することができました。チーム結成15年目に当たる来季は、40試合が目標です。
遠征	

1991年(創部14年目シーズン)

1992年(平成4年)度 リーブス球団 今年の出来事・来季への展望 (全47試合)

日付	曜日	出来事
1) 3月1日	(日)	(三振王)倉本選手入団。
2) 3月8日	(日)	佐々選手、宮本監督の業務命令で入団。
3) 3月21日	(土)	田原選手結婚。
4) 8月29日～8月30日	(土)～(日)	小浜遠征。小浜市営 対若狭センターズ戦 4対1で勝利し2年越しの雪辱を果たす。
5) 9月5日	(土)	小田南公園 対クリプルズ戦 好投好打で6対3と勝利し、クリプルズ戦念願の初勝利。
6) 9月6日	(日)	小田南公園 対東急観光塚戦 10対6で勝利し、宮本投手が球団史上初の2年連続2桁勝利を挙げる。
7) 9月12日	(土)	辻井選手結婚。
8) 9月26日	(土)	小田南公園 対尼崎レッドスターズ戦 名手伊藤の頭脳的なプレーでトリプルプレー完成。
9) 10月3日	(土)	濱本選手入団。
10) 10月31日	(土)	当日の1試合目、小田南公園(15～17時) 対ドベターズ戦にて、今季目標の年間40試合を達成。
11) 11月8日	(日)	根来選手入団。
12) 11月14日	(土)	園田 対JTBスターシップ戦 小寺投手が勝利し球団史上3人目の2桁勝利達成。
13) 11月21日	(土)	小田南公園 対セインツ戦 投手宮本、執念の15勝目。
14) 11月23日	(月)	豊中豊島にて、今季初のダブルヘッダー。強化練習もでき、充実の一日を過ごした。高山オーナーから選手全員に豪華幕の内弁当がふるまわれた。

項目	展望
来季の試合予定	
遠征	

1992年(創部15年目シーズン)

1993年(平成5年)度 リーブス球団 今年の出来事・来季への展望 (全52試合)

日付	曜日	出来事
1)	2月	牧内選手、塩山選手入団。
2)	2月27日～2月28日 (土)～(日)	プロ野球宮崎・西都キャンプを視察。丸山選手、福岡より合流。巨人対ヤクルトのオープン戦を観戦。根来選手、初めて飛行機に乗る。
3)	3月13日～6月9日 (土)～(水)	3月13日1試合目 対トラジャル戦から6月9日1試合目 対益朗'S戦まで約3ヶ月間、引き分けを挟んで破竹の21連勝。
4)	4月10日 (土)	渡辺選手入団。
5)	4月17日 (土)	園田 対森本組戦 6回裏の守備、2アウト1・3塁でキャッチャー和田からセカンドへの送球をセカンド大久保がセンターへそらし、センター桜井がそれを更に後逸し、一塁ランナーまで一挙にホームをつかれ2点を取られる珍プレー。
6)	4月18日 (日)	小田南公園 対大堀戦 根来投手、球団史上初のノーヒットノーラン達成。
7)	5月15日 (土)	園田 対阪急交通社戦 樋口選手、2塁打、2塁打、ホームラン、2塁打、3塁打の5打数5安打でサイクルヒットに限りなく近い記録。
8)	8月14日 (土)	園田 対益朗'S戦に勝利し、昨年4連敗した益朗'Sに対して、今年は3連勝を飾る。
9)	8月21日 (土)	村松選手入団。対JTBスターシップ戦に即先発するも敗戦投手。力が入り過ぎたようでした。
10)		今年はオーナー、監督、球団事務所の都合が合わず、夏のキャンプ・遠征を中止。
11)	9月11日 (土)	小田南公園 対尼崎レッドスターズ戦 宮本投手がカモにしていた尼崎レッドスターズに初黒星。
12)	11月3日 (水)	当日の1試合目、小田南公園(15～17時) 対トラジャル戦にて、球団史上初の年間50試合を達成。試合は8対1で快勝。勝投手村松。
13)		ダブルヘッダーを4回行う。

項目	展望
来季の試合予定	
遠征	

1993年(創部16年目シーズン)

1994年(平成6年)度 リーブス球団 今年の出来事・来季への展望 (全63試合)

日付	曜日	出来事
1) 2月26日～2月27日	(土)～(日)	プロ野球宮崎・西都キャンプを視察。巨人対近鉄のオープン戦を観戦。
2) 3月27日	(日)	鈴木選手入団。
3) 5月7日	(土)	後藤選手、枝並選手入団。
4) 6月4日	(土)	岩崎選手入団。
5) 7月3日	(日)	高砂向島にて行われた、第15回すこやか杯争奪戦軟式野球大会に参加。4チームが参加。 1試合目 対プリンス戦 9対1で勝利。 2試合目 対ドリームズ戦 8対1で勝利。 2連勝でリーブスが優勝する。
6) 7月31日～10月2日	(日)～(日)	7月31日1試合目 対エトセトラ戦から10月2日1試合目 対コブラ戦まで、引き分けを挟んで破竹の15連勝。
7) 8月7日	(日)	笹川選手入団。
8) 8月27日～8月28日	(土)～(日)	小浜遠征。若狭上中 対若狭センターズ戦 19対3で勝利し一昨年に続き2連勝。
9) 10月10日	(月)	当日の1試合目、小田南公園(9～11時) 対レッドソックス戦にて、これまでの年間最多試合数52を超える53試合を達成し、球団史上最多の年間試合数を更新。
10) 11月23日	(水)	当日の1試合目、橘公園(11～13時) 対関西テック戦 今季最終戦で球団史上最多の63試合を消化。

項目	展望
来季の試合予定	3月～11月の9ヶ月間で年間100試合達成を目指して活動します。
遠征	先の話ですが3年後の1997年に球団創設20周年を迎えます。記念行事の一環としてオーストラリア遠征を計画しています。費用は15万円までを予定していますので、今から球団にて積立をしていきたいと思えます。

1994年(創部17年目シーズン)

1995年(平成7年)度 リーブス球団 今年の出来事・来季への展望 (全19試合)

日付	曜日	出来事
1) 1月17日	(火)	阪神淡路大震災発生。
2) 3月18日	(土)	荒木選手入団。
3) 4月		震災による仮設住宅建設のため、小田南公園、園田、橘公園と尼崎市内のグラウンドが次々と閉鎖される。
4) 11月25日	(土)	最終日の恒例となっていた紅白戦及び納会を取りやめにする。

項目	展望
来季の試合予定	
遠征	

1995年(創部18年目シーズン)

1996年(平成8年)度 リーブス球団 今年の出来事・来季への展望 (全14試合)

日付	曜日	出来事
1) 3月9日	(土)	藤井選手入団。
2) 4月20日	(土)	村山選手入団。

項目	展望
来季の試合予定	
遠征	来季はリーブス球団創設20周年です。それを記念してオーストラリア遠征を予定しています。

1996年(創部19年目シーズン)

1997年(平成9年)度 リーブス球団 今年の出来事・来季への展望 (全24試合)

日付	曜日	出来事
1) 3月8日	(土)	竹下選手入団。
2) 4月12日	(土)	山下(大)選手入団。
3) 8月22日～8月27日	(金)～(水)	20周年記念行事として、球団史上初の海外遠征となるオーストラリア遠征を実施。 8月24日(1試合目) 対サーファーズ オールスターズ戦 0対1で敗戦。 8月24日(2試合目) 対サーファーズ オールスターズ戦 4対12で敗戦。

項目	展望
来季の試合予定	
遠征	来季は山下(雅)選手の故郷、五島列島への遠征を計画しています。

1997年(創部20年目シーズン)

1998年(平成10年)度 リーブス球団 今年の出来事・来季への展望 (全26試合)

日付	曜日	出来事
1) 8月30日～6月27日 (土)～(土)		昨年の8月30日1試合目 対ジョンソン&ジョンソン戦から今年の6月27日1試合目 対阪急交通社戦まで、引き分けを挟んで破竹の19連勝。
2) 2月		主砲の和田選手が、在京球団へのレンタル移籍が急遽決まりました。
3) 3月7日 (土)		横井(公)選手、原田選手入団。
4) 7月24日～7月27日 (金)～(月)		山下(雅)選手の故郷、五島列島遠征。雨に祟られた五島列島遠征でしたが、当初の予定とは違った形で成果を上げることができました。純粋に白球を追いかけると言うことが、ここまで人の輪を広げられるとは非常に素晴らしいことです。滞在中お世話になった方々に御礼申し上げます。
5) 8月1日 (土)		北野選手入団。

項目	展望
来季の試合予定	
遠征	

1998年(創部21年目シーズン)

1999年(平成11年)度 リーブス球団 今年の出来事・来季への展望 (全41試合)

日付	曜日	出来事
1) 5月2日～5月5日	(日)～(水)	神戸・兵庫コスモス上五島遠征。昨年夏のリーブス上五島遠征に端を発したコスモス上五島遠征。多くの皆様の理解と協力を得て、成功裏に終了。新魚目町の皆さん、コスモス招聘委員会の皆さん心から御礼申し上げます。コスモスの皆さんお疲れ様でした。コスモス遠征後、コスモスとソフトボールで交流をした地元のチーム「たんぼぼ」が6月のグリーンスタジアム神戸での全国障害者野球大会出場を目指して、軟式野球チーム「上五島つばき」として発足。
2) 5月15日	(土)	尼崎記念公園 対JTS戦 丸山選手、移籍先の福岡ダイエーホークスから帰阪。古巣での第一戦。
3) 8月21日	(土)	万博公園 No.1 対トランスオービット戦を最後に北野選手、東京転勤。常時参加メンバーだっただけにチームにとっては痛手。
4) 8月28日	(土)	森(徹)選手入団。
5) 9月4日	(土)	小田南公園4年半ぶりに再会。1995年1月17日の阪神大震災後、ホーム球場を追われ、万博公園や地方球場を転々とし苦難の時期を過ごしてきましたが、やっとホーム球場で心から楽しんで野球ができるようになりました。感謝。
6) 10月9日～10月10日	(土)～(日)	上五島つばき(長崎県初の身体障害者野球チーム)のコーチングにコスモスの伊藤コーチを上五島へ招聘。山下(雅)選手が添乗員として同行。
7) 10月11日	(月)	大島(建)選手、黒佐選手入団。
8) 11月3日	(水)	明石公園にて、兵庫県ふれあいスポーツ交流大会の予備日を利用しての4チーム対抗すこやか杯大会。神戸コスモスと延長9回(時間切れ)、0対0の死闘を演じる。

項目	展望
来季の試合予定	50試合以上を目途に、4月～9月の土曜日は15時と17時のダブルヘッダー、3月、10月、11月は各土曜日1試合を予定しています。
遠征	カナダが候補に挙がっていましたが、夏場は値段が非常に高く金銭的に実現不可。グアムが有力候補に挙がっています。五島列島遠征も選肢の1つです。(盆にペーロンを押しに行きましょう!!)。

1999年(創部22年目シーズン)

2000年(平成12年)度 リーブス球団 今年の出来事・来季への展望 (全52試合)

日付	曜日	出来事
1) 3月11日	(土)	網野選手、木戸選手入団。
2) 3月18日	(土)	東井選手入団。
3) 4月8日	(土)	小田南公園 対尼崎レッドスターズ戦 樋口投手、球団史上2度目のノーヒットノーラン達成。
4) 7月20日	(木)	橘公園 対尼崎レッドスターズ戦 木戸選手、足の指を骨折。長期のリタイアを余儀なくされる。
5) 8月25日～8月28日	(金)～(月)	海外遠征第2弾、ミレニアム・グアム遠征。地元グアム大学の野球チームとパセオスタジアムで親善試合。2対10で敗れたが、大いに野球を楽しんだ。リーブスからの選手は5名であったが、地元の日本人助っ人を入れて対戦。現地日本人FM局のホームページに、今回の遠征の写真・記事をのせてもらう。
6) 9月2日	(土)	小田南公園 対阪急交通社戦 伊藤選手、久々の復帰戦でサードを守りいきなりのエラー。
7) 9月2日	(土)	新村選手入団。
8) 10月21日	(土)	小田南公園 対カルチャーズ戦 鉄人伊藤選手がゴロを捕球にいった際に太もも裏の肉離れをおこす。
9)		今季は52試合と震災前の1993年の52試合37勝10敗5分に並ぶ。

項目	展望
来季の試合予定	50試合以上を目途に、3月～11月の9ヶ月間野球を楽しみたいと思います。特に5月～10月の土曜日は基本的に15時と17時のダブルヘッダーを予定します。5月～10月の間に何回か「リーブス野球DAY」として、トリプルヘッダーを予定。
遠征	リーブスとしては特にありません。
	今年は2000年ミレニアム。そして20世紀最後の年。今年も平穩に野球を楽しむことができましたことを深く感謝して、さらに21世紀の開幕戦を心待ちにしたいと思います。

2000年(創部23年目シーズン)

2001年(平成13年)度 リーブス球団 今年の出来事・来季への展望 (全63試合)

日付	曜日	出来事
1) 3月24日	(土)	小田南公園 対住友3M戦を最後に、引っ越しのため木戸選手退団。
2) 4月3日(現地時間2日)	(火)	マリナーズイチロー、オークランド・アスレチックス戦との開幕戦に1番ライトでスタメン出場。第4打席にセンター前へメジャー初安打を放つ。
3) 4月5日(現地時間4日)	(木)	レッドソックス野茂秀雄、オリオールズ戦で自身2度目のノーヒットノーランを達成。両リーグでのノーヒットノーランはサイ・ヤング、ジム・パニング、ノーラン・ライアンに次いでメジャー史上4人目の快挙。
4) 4月28日	(土)	黒佐選手2試合にまたがり1試合目:2塁打、3塁打、ホームラン、2試合目:2塁打を放ち、1993年5月15日の樋口選手以来サイクルヒットに限りなく近い記録。
5) 6月		オリオールズ、カル・リプケン引退表明。
6) 9月		高山オーナーの命、リーブス球団の名誉アドバイザーの長嶋監督勇退。
7) 10月		ジャイアンツ・バリーボンズ、73本塁打でメジャーリーグ、シーズンホームラン記録更新。
8) 11月5日(現地時間4日)	(月)	ダイヤモンドバックスに敗れヤンキース、ワールドシリーズ4連覇ならず。
9)		昨年から行なっているトリプルヘッダーを今年も5回行なう。
10)		今季は63試合と震災前年の1994年の63試合43勝17敗3分の年間最多試合数に水準が戻る。

項目	展望
来季の試合予定	21世紀初のシーズンを終えて、25年、30年、さらに50年と続けていきたいと改めて意を決しております。来季も3月からの開幕を楽しみにしたいと思います。来季は70試合が目標です。トリプルヘッダーも増えますので、全員50試合以上の参加を目指して下さい。
遠征	来季は球団創設25年目にあたります。記念の行事として、遠征やOB戦を計画しています。遠征候補地は、オーストラリア(ゴールドコースト)、ニューヨーク・ブルックリン(ブルックリン・サイクロンズとの交流)、台湾(ワールドカップの舞台、天母球場)、北海道(札幌ドーム)、沖縄(米軍基地のチームと対戦)、または小浜です。
	来季は外野が大きく補強されます。横井(公)選手が岡山より、和田選手が江戸より帰ってくる事が決定しています。横井選手が体に合うユニフォームがあるかどうか心配です。和田選手とは再契約金交渉がまだまとまっていませんので、復帰が流動的な部分もありますが、球団としては若返りを図るため、和田二世を狙っています。熾烈な外野のレギュラー争いを期待します。(ただし、ライトは聖域ですのでレフトとセンターだけで争って下さい)。

2001年(創部24年目シーズン)

2002年(平成14年)度 リーブス球団 今年の出来事・来季への展望 (全80試合)

日付	曜日	出来事
1) 3月2日	(土)	酒友である徳山氏の紹介で、老齡の新人・西峯選手入団。野球の動きは今一つであるが、口はよく動く。一杯入れればさらによく動く。
2) 3月23日	(土)	曾根選手入団。対戦相手カツツェの主力がリーブスとの掛持ちで野球に燃える。
3) 3月30日	(日)	藤枝選手入団。対戦相手カツツェの主力がリーブスとの掛持ちで野球に燃える。
4) 4月29日	(月)	金岡選手入団。暇人ということで、入団交渉は即決。
5) 5月31日～6月30日	(金)～(日)	21世紀に入って初となるサッカーワールドカップは、大会史上初めて日本と韓国の2ヶ国による共同開催。更にアジアで開催された事も初めてであった。
6) 6月8日	(土)	長谷川選手入団。
7) 6月15日	(土)	昨年からはじめたトリプルヘッダーの上をいく一日4試合に挑戦。(感想:ものには限度というものがあることを実感)。
8) 6月15日	(土)	野田選手鮮烈デビュー。紹介者の和田選手がかすんでしまった。
9) 6月29日	(土)	森(徹)選手結婚。また、五島列島へお越し下さい。
10) 8月3日	(土)	親友西峯選手に触発されて、生野選手入団。大口をたたかずに黙々と野球に取り組む姿勢が素晴らしい。紹介者とはえらい違い。
11) 8月31日	(土)	小田南球場にて、 球団創部25周年 記念行事を行なう。OB・現役交流試合とBBQの夕べを楽しむ。リーブス球団の往年の4番三橋選手、小豆島キャンプで肋骨を骨折した松木選手らとの久々の対面。よくぞ皆さんご無事で。試合開始早々に負傷の三橋選手には野球を十分に楽しんでもらえずに残念でした。
12) 10月		11月分より球場申込抽選が、これまでの往復ハガキからインターネット申込に変更となる。
13) 10月14日	(月)	当日の1試合目、小田南公園(13～15時) 対シューティング・スターズ戦にて、これまでの年間最多試合数63を超える64試合を達成し、球団史上最大の年間試合数を更新。
14) 10月19日	(土)	小田南公園 対尼崎ドリーマーズ戦 新村投手、自身初登板でノーヒットノーラン達成。
15) 11月23日	(土)	当日の2試合目、小田南公園(15～17時) 対住友3M戦 今季最終戦で球団史上最大の80試合を消化。山下(雅)選手、1試合参加できず全80試合参加の大記録を逃す。年間100試合まであと一息。

項目	展望
来季の試合予定	80試合を達成したからには、残りの目標は1つ。100試合です。しかしながら、グラウンドの申込方法が変わったことにより、これまでにくらべて来季のグラウンドの確保はいくぶん難しくなると予想されます。時間帯および球場が飛び飛びとなるケースが多々あるかと思えます。それでも、100試合を目指したいと思えます。期間は例年どおり3月～11月の9ヶ月間で、土曜日の15時と17時のダブルヘッダーを基本に考えています。もちろん、ト
遠征	マイナーリーグごっこをします。ハンバーガーリーグと呼ばれるマイナーの大変さを体験するのが目的です。車で点々と遠征をするハードスケジュールをこなしてみたいと思えます。

2002年(創部25年目シーズン)

2003年(平成15年)度 リーブス球団 今年の出来事・来季への展望 (全90試合)

日付	曜日	出来事
1)	3月8日 (土)	岡田選手入団。
2)	3月22日 (土)	三田選手入団。
3)	3月22日～7月19日 (土)～(土)	3月22日2試合目 対シューティング・スターズ戦から7月19日3試合目 対トレボン(金鳥)戦まで約4ヶ月間、引き分けを挟んで破竹の30連勝。31連勝目をかけて登板した山下(雅)投手が31連勝目をつぶす。
4)	3月29日 (土)	魚つり公園 対プリンストン(神戸女学院)戦 伊藤投手、エラー1個で完全試合は逃すもノーヒットノーラン達成。
5)	9月6日 (土)	小田南公園 対東急観光教育旅行支店戦 球団史上初、山下(雅)選手と山下(大)選手親子が同一試合で猛打賞を記録。餌食になった相手投手は、リーブス前監督の宮本投手。世界初の出来事か!?
6)	10月4日 (土)	小田南公園 対ポストマン尼崎戦を最後に藤枝選手福岡へトレード。
7)	10月	伊藤選手、アフリカチームとの業務提携へ向けてジンバブエ等のアフリカ南部視察のため、戦列を離れる。
8)	11月8日 (土)	当日の2試合目、小田南公園(15～17時) 対ジャージーズ戦にて、これまでの年間最多試合数80を超える81試合を達成し、球団史上最多の年間試合数を更新。
9)	11月15日 (土)	小田南公園 対関西テック戦 生野選手、4打席4打数4安打の快挙。レフト、ライト、レフト、ライトのつるべ打ち。絶好調なのに、11月29日の最終戦、雨で中止が恨めしい。
10)	11月16日 (日)	全日本選手権 神戸コスモス対北九州フューチャーズ戦(但馬ドーム) 神戸コスモスが北九州フューチャーズに敗れ、神戸コスモスの連勝が105連勝でストップ。
11)	11月24日 (月)	当日の2試合目、小田南公園(11～13時) 対K.I.ロッキーズ戦 今季最終戦で目標の90試合に到達し、球団史上最多の年間試合数を更新。雨天等で流れた15試合を考慮すれば、100試合を超えるペース。

項目	展望
来季の試合予定	90試合まできたら、目指すは100の大台です。1日4試合をやれば、次は1日5試合です。
遠征	どこか行きたいと思っています。

2003年(創部26年目シーズン)

2004年(平成16年)度 リープス球団 今年の出来事・来季への展望 (全87試合)

日付	曜日	出来事
1)		伊藤選手、5月末より尼崎産業高校の投手コーチに招聘され、リープス活動から遠ざかる。
2)	5月29日 (土)	大島(永)選手入団。即戦力として好守に活躍。途中入団であるが参加試合数は半数を超える。
3)	6月5日 (土)	小田南公園 対兵庫スパイラル戦 和田選手レフトフェンス越えのホームラン。
4)	7月3日～8月21日 (土)～(土)	昨年の30連勝には及ばないものの、7月3日2試合目 対かすみ草戦から8月21日3試合目 対かすみ草戦まで、引き分けを挟んで16連勝。
5)	7月17日 (土)	小田南公園 対神田塾チーム戦 長谷川投手、みんなの知らぬ間にノーヒットノーラン達成。
6)	8月23日(現地時間22日) (月)	アテネオリンピック。野口みずき、女子マラソン界2大会連続の金メダル獲得。
7)		今夏は、猛暑と台風頻発で日本直撃。
8)	10月2日(現地時間1日) (土)	マリナーズイチロー、1920年にジョージ・シスラーが樹立した年間最多安打記録(257本)を84年ぶりに更新する258安打目をセンター前へ放ち、本拠地シアトルで大リーグ記録を樹立。その後、年間安打数を262安打まで伸ばす。
9)	10月	リーグチャンピオンシップシリーズでレッドソックスがヤンキースに3連敗するも4連勝してアメリカンリーグ優勝。そのままの勢いでカーディナルスに4連勝し、86年ぶりのワールドシリーズ制覇。
10)	10月2日 (土)	ホニャチャラ4番の紹介で、オールドルーキー蔦選手入団。
11)	10月22日 (金)	プロ野球大阪近鉄バファローズとオリックス・ブルーウェーブが合併して1球団なり、フルキャストスタジアム宮城を本拠地とする新球団、東北楽天ゴールデンイーグルスが誕生。プロ野球の新規参入球団は1954年の高橋ユニオンズ以来50年ぶり。
12)	10月23日 (土)	新潟中越大地震発生。
付録		西峯選手、5月に猛打賞。その後が続きませんでした。んー——残念。

項目	展望
来季の試合予定	100試合は気力・体力的に無理なので、80試合前後にしたいと思います。ただし、1日5試合の希望は捨てていません。
遠征	毎年、どこか行きたいと思っておりますが、最近実現していません。再度五島列島という希望も出ているようですので、考慮しておきます。

2004年(創部27年目シーズン)

2005年(平成17年)度 リーブス球団 今年の出来事・来季への展望 (全72試合)

日付	曜日	出来事
1) 3月5日	(土)	豊原選手入団。
2) 3月26日	(土)	パリーグ開幕日、新規参入の楽天開幕戦で記念すべき球団初勝利。
3) 3月		横井(公)ジュニア誕生。
4) 4月2日	(土)	辰川選手、曾根選手の紹介で入団。デビュー戦の「素晴らしい? 守備」も杉原選手不参加であったため、内分に付される。
5) 4月30日	(土)	小田南公園 対グッドフェローズ①戦 三田選手、球団史上初のライトフェンス越えのホームラン。
6) 5月14日	(土)	熊谷選手「筋肉がブチッといた」事件。
7) 6月16日(現地時間15日)	(木)	デビルレイズ野茂英雄がブルワーズ戦で日米通算200勝達成。
8) 7月9日	(土)	幻の白浜遠征。
9) 9月8日(現地時間7日)	(木)	ヤンキース松井秀喜がレイズ戦で日米通算400号を放つ。
10) 9月24日	(土)	小田南公園 対関西エンジニアリング戦 岡田選手、フェンス奥の樹木を直撃するレフトフェンス越えのホームラン。球団史上最長の飛距離か。
11) 10月1日	(土)	魚つり公園 対サルボスタイル戦 岡田選手、2週連続で柵越えホームラン。弾丸ライナーで魚つり公園のレフトフェンス越え。
12) 10月27日(現地時間26日)	(木)	ホワイトソックス井口資仁、ワールドシリーズ制覇。
13) 10月		内田選手結婚。
14) 11月20日	(日)	高橋尚子、東京女子マラソン優勝。2年ぶりのレースで感動の復活。

項目	展望
来季の試合予定	72試合は少ない気がします。昨年と比べて15試合も減っています。85試合以上、そして、1日5試合を目指して。
遠征	5月の連休、五島列島へ行きます。
	2007年(平成19年)、球団創設30周年遠征計画の発表。

2005年(創部28年目シーズン)

2006年(平成18年)度 リーブス球団 今年の出来事・来季への展望 (全87試合)

日付	曜日	出来事
1)	3月	新意匠ボールを正式に使用し始める。
2)	3月	昨年末に購入のリーブスロゴ入りのヘルメットを使用開始。
3)	3月21日(現地時間20日) (火)	第1回WBC開催。第1ラウンド(アジアラウンド)に続き第2ラウンド(アメリカラウンド)でも韓国に敗れ2連敗するも、アメリカのまさかの敗退で日本準決勝進出。準決勝では3度目の正直で韓国を完封で降し、キューバとの決勝を制し日本が初代チャンピオンとなる。
4)	3月	RSL(リバーサイドリーグ)への加盟決定。
5)	4月1日 (土)	橘公園 対ジーローズ戦 RSL初戦、エラーで黒星発進。10勝完全優勝の望みがいきなり断たれる。
6)	4月1日 (土)	当日の2試合目、小田南公園 対ナインスターズ戦 和田選手、レフトフェンス越えの完璧ホームラン。新型球になって第1号。
7)	4月8日 (土)	当日の2試合目、小田南公園 対バッカス戦 和田選手、2週連続でレフトフェンス越え。恒例の花見BBQ盛会。
8)	7月	和田、三田両選手のホームラン争いは白熱。マグワイアとソーサのリーブス版か。
9)	7月	3割の打率を超える選手が4名(うち1名は4割超え)もいるのに、この頃は敗戦、特に逆転負けが多い。
10)	8月5日 (土)	狂気の1日5試合を達成。病院送致1名、故障者2名が出たが、全28イニングフル出場達成も3名(大島(永)、三田、山下(大))。
11)	10月1日 (日)	阪急と阪神が統合。
12)	10月	兵庫のじぎく国体で、リーブス球場を軟式野球会場として貸し出す。
13)	10月14日 (土)	橘公園 対JALトラベルウエスト戦 今季73試合目にして 創部1000試合達成 。7×対6とサヨナラ勝ちで記念試合を飾る。JALトラベルウエストと記念試合、写真撮影。そして小田南公園へ移動して記念撮影とBBQを楽しむ。
14)	10月28日(現地時間27日) (土)	カージナルス田口壮、ワールドシリーズ制覇。
15)	11月	白のTシャツと紺のユニフォーム2枚組みを作製。
16)	11月	1日5試合を2度組むも、1つは雨に祟られ全試合中止。年間最多試合更新が可能であっただけに非常に残念。
17)	12月	西武松坂大輔、ポスティングでレッドソックスと入団交渉。

項目	展望
来季の試合予定	やはり100試合を目指します。そして、1日6試合制覇を目指して。
遠征	球団創設30周年遠征として7月に野球の聖地クーパースタウンへ行きます。
	今季4位(全8チーム参加)に甘んじたRSL、来季は完全優勝を目指します。

2006年(創部29年目シーズン)

2007年(平成19年)度 リーブス球団 今年の出来事・来季への展望 (全111試合)

日付	曜日	出来事
1) 2月24日	(土)	創部30年目のシーズン、年間100試合達成を目指して、例年より1週間早く2月末より開幕。
2) 3月17日	(土)	優勝を目指してRSL2年目のシーズン開幕。苦戦ながらロマンチックス戦白星発進。
3) 4月6日(現地時間5日)	(金)	レッドソックス松坂大輔、ロイヤルズ戦でメジャー初登板初先発で初勝利。
4) 4月7日	(土)	野澤選手入団。
5) 7月		球団創設30周年遠征計画『野球の聖地クーパースタウン』遠征は、参加者不足で断念。
6) 9月1日～2日	(土)～(日)	グラスボーイズと合同で淡路島合宿。
7) 9月15日	(土)	住吉公園 対関西おっさんクラブ戦(RSL⑧) 1対2×のサヨナラ負けでRSL自力優勝消滅。
8) 9月29日	(土)	当日の3試合目、小田南公園(17～19時) 対ジーローズ戦にて、これまでの年間最多試合数90を超える91試合を達成し、球団史上最多の年間試合数を更新。
9) 10月29日(現地時間28日)	(月)	レッドソックス松坂大輔、岡島秀樹、ワールドシリーズ制覇。
10) 11月3日	(土)	小田南公園 対大阪ヤンキース戦 4対3で勝利。 今季目標の年間100試合目を白星で達成。
11) 11月10日	(土)	当日の2試合目、小田南公園(13～15時) 対バッカス戦で山下(雅)選手が、前人未到の 年間100試合出場 を達成。その後、108試合まで記録を伸ばす。
12) 12月1日	(土)	小田南公園 対ジーローズ戦 0対2の完封で敗れ全体4位(全8チーム参加)に甘んじる。この試合で111試合に到達し、球団史上最多の年間試合数を更新。
13) 12月3日	(月)	星野ジャパン、3戦全勝で北京オリンピック出場権獲得。
14)		創部30年目のシーズン終了。来季から、また新しい一歩を踏み出します。

項目	展望
来季の試合予定	80試合位が適当でしょう。1日6試合を制覇したい。
遠征	ゴールデンウィークにどこかへ(行き先未定)。
	今季も4位(全8チーム参加)に甘んじたRSL、来季こそ優勝。

2007年(創部30年目シーズン)

2008年(平成20年)度 リーブス球団 今年の出来事・来季への展望 (全90試合)

日付	曜日	出来事
1) 3月1日	(土)	山本選手入団。
2) 3月15日	(土)	今年こそ優勝を目指してRSL3年目シーズン開幕も、苦手ロマンチックスに黒星発進。
3) 5月31日	(土)	十三公園 対トラッキーズ戦(RSL④) 2×対1の逆転サヨナラ勝ちで、RSL4戦目にしてやっと今季初勝利。
4) 7月5日	(土)	スコアブックバインダーを新調。
5) 7月17日	(木)	野茂英雄、引退表明。
6) 8月23日	(土)	北京オリンピック、野球日本代表3位決定戦でアメリカに4対8で敗れ4位。メダルに届かず。
7) 9月6日	(土)	今年もグラスボーイズと合同で淡路島強化練習に参加。
8) 9月20日	(土)	小田南公園 対グラスボーイズ戦(RSL⑦) 3対1で勝利。昨年から今年にかけて負けなしのチームに黒星を付ける。
9) 10月10日	(金)	阪神との最大13ゲーム差を追いついて巨人セリーグ2連覇。メークレジェンド。
10) 10月		王監督勇退。
11) 10月28日	(火)	レイズの岩村明憲、ワールドシリーズ出場を果たすも、1勝4敗で田口所属のフィリーズがワールドチャンピオンに。
12) 10月28日	(火)	マラソンの高橋尚子が引退表明。
13) 11月29日	(土)	小田南公園 対関西おっさんクラブ戦(RSLシリーズ3位決定戦) 6対1で勝利。3連敗スタートであったが全体3位(全8チーム参加)に順位を上げる。

項目	展望
来季の試合予定	80試合位が適当でしょう。1日6試合を制覇したい。
遠征	ゴールデンウィークと9月にも5連休があります。どこへ行きましょうか。岩手盛岡はどうですか。
	今季順位を3位(全8チーム参加)まで上げたRSL、来季こそ優勝。

2008年(創部31年目シーズン)

2009年(平成21年)度 リーブス球団 今年の出来事・来季への展望 (全93試合)

日付	曜日	出来事
1) 3月24日(現地時間23日)	(火)	第2回WBC日本連覇。その後、マリナーズイチローが胃潰瘍でDL入り。
2) 3月21日	(土)	RSL参戦4年目シーズン開幕。トラッキーズに1対0と好発進。4番野澤選手の一振りによる隅1を、投手長谷川がヒット1本に押えて完封で守りきる。6回2アウトまでノーヒット・ノーラン。
3)		上原浩治(オリオールズ)、川上憲伸(ブレーブス)MLBへ。
4) 5月2日	(土)	川村選手入団。
5) 7月11日	(土)	スカイマークスタジアムで試合。
6) 7~8月		兵庫県予選を勝ち抜き、関西学院高等部野球部が70年ぶりの甲子園出場を決める。リーブス在籍の関学OB、おめでとうございます。甲子園本大会では、初戦突破。
7) 9月5日	(土)	今年もグラスボーイズと合同で淡路島強化練習に参加。
8) 9月14日(現地時間13日)	(月)	マリナーズイチロー、メジャーリーグ新記録となる9年連続200本安打達成。
9) 9月26日	(土)	魚つり公園 対関西おっさんクラブ戦(RSL⑦) 14対4で快勝しRSLリーグ・Yリーグ優勝を決める。リーグ参加4年目にして初のリーグ制覇。(付け足し:山下(雅)選手の誕生日)。
10) 11月3日	(火)	京セラドームで試合。トーナメント1回戦5対0で敗退。
11) 11月5日(現地時間4日)	(木)	ヤンキースがワールドシリーズを制覇。松井秀喜がMVPを獲得。
12) 11月7日	(土)	ジャイアンツが日本シリーズを制覇。
13) 11月28日	(土)	松島公園 対グラスボーイズ戦(RSLシリーズ) 2対1で勝利し、RSLシリーズ初優勝(全8チーム参加)。リーグ参加4年目にして涙のリーグ初制覇。(付け足し:山下(雅)選手の嫁の誕生日)。
14)		今年は、長期の故障者リストに乗った選手が多いシーズンでした。来季は安全にも気を配る。

項目	展望
来季の試合予定	90試合位が適当でしょう。1日6試合の制覇。
遠征	ゴールデンウィークの5連休は五島列島遠征です。
	開幕前に1年間怪我のないことを祈りに、今年は大物神社詣から行います。
	1年ごとに順位を上げてきたRSLで今季初優勝。来季は連覇を目指そう。

2009年(創部32年目シーズン)

2010年(平成22年)度 リーブス球団 今年の出来事・来季への展望 (全85試合)

日付	曜日	出来事
1)	1月	和田選手の二男紳平君が、1年生ながら関大一高のレギュラーとして、全国高校サッカー選手権に出場しベスト8。国立を目の前にしてPK戦で敗退。
2)	2月	球団メンバーを対象に野球ルールの勉強会を神戸にて開催。好評。
3)	2月	バンクーバーオリンピック開催。
4)	3月13日	(土) 参戦5年目となるRSLは、初戦白星と連覇へ向けて好発進したが、最終結果は4位。連覇はならず。
5)	4月7日	(水) ジャイアンツ木村拓也コーチが他界。37歳。2日の試合前のノック中に倒れる。くも膜下出血。冥福を祈ります。
6)	6月19日	(土) 松野選手入団。
7)	6~7月	ワールドカップサッカー南アフリカ大会。日本ベスト16。
8)		オリオールズ上原浩治、終盤は抑えとして大活躍。来季の活躍を期待。
9)	8月	暑かった、暑かった。
10)	8月28日	(土) 魚つり公園 対上ヶ原グリーンホーンズ戦 野澤投手、ノーヒットノーラン達成。
11)	8月28日	(土) 松田選手入団。
12)	9月24日(現地時間23日)	(金) マリナーズイチロー、メジャーリーグ新記録となる10年連続200本安打達成。
13)	10月10日	(日) 小野公園 対SURE9戦 大島(永)投手、ノーヒットノーラン達成。
14)	11月7日	(日) ロッテレギュラーシーズン3位からCSを勝ち上がり日本シリーズ制覇。
15)	11月15日	(月) 九州場所2日目、横綱白鵬が平幕稀勢の里に敗れ63連勝でストップ。連勝記録の更新ならず。
16)	11月27日	(土) RSL最終節を開催。唯一自力優勝の可能性があったロマンチックスでしたが、グラスボーイズに敗退。そしてトラックキーズが勝ったため、グラスボーイズ対トラックキーズが優勝をかけて12月18日にプレーオフ。
17)		今年は、2人の新規入団者と「出戻り」が1人あり、来季の戦力として大いに期待できます。

項目	展望
来季の試合予定	107試合を消化すれば一気に1,500試合となりますが、やりますか。
遠征	毎年のことですが、計画倒れに終わっています。日帰りプチ遠征でもしますか。

2010年(創部33年目シーズン)

2011年(平成23年)度 リーブス球団 今年の出来事・来季への展望 (全80試合)

日付	曜日	出来事
1)	1月	和田選手の二男紳平君が、今年も関大一高のレギュラーとして、全国高校サッカー選手権に出場。紳平君がイエローカードの累積で出場出来なかった試合でチームは敗退。
2)	1月21日 (金)	2008年12月17日にスタートし、約2年間かけて間寛平アースマラソンを完走。ゴール地点はスタート地点と同じなんばグランド花月。
3)	1月29日 (土)	サッカーアジアカップ開催。日本サッカーが一皮も二皮もむけた強さをみせて頂点に。
4)	2月	大相撲八百長メール問題発覚。
5)	3月11日 (金)	東日本大震災発生。津波により、人、家屋、原発施設に壊滅的被害。
6)	3月12日 (土)	九州新幹線全線開業するも前日に起こった震災の影響でひっそりと開業。
7)	3月26日 (土)	小田南公園 対ロマンチックス戦(RSL①) 3回表の守備で辰川選手がなんとグローブを持たずにライトの守備につき、しかも投手が1球投じるまで気付かないという前代未聞の大珍事発生。
8)	4月29日 (金)	英国ウイリアム王子がケイトミドルトンさんと結婚。
9)	4月30日 (土)	市丸(剛)選手入団。
10)	7月18日(現地時間17日) (月)	女子ワールドカップサッカードイツ大会、なでしこジャパン世界一。その後団体としては初となる国民栄誉賞を受賞。
11)	7月24日 (日)	地上デジタルテレビ放送へ全面移行(アナログ放送の廃止)。
12)	9月	久方ぶりの日本人大関琴奨菊が誕生。
13)	9月	レンジャーズ上原浩治、西地区優勝。
14)	9月	マリナーズイチロー、メジャーリーグ11年連続200本安打達成ならず。184本で終了。
15)	10月	タイ国内大洪水。国土の3分の1が水没。
16)	10月	ワールドシリーズ、レンジャーズあと1つのアウトが取れずカージナルスに逆転負け。
17)	10月31日 (月)	世界人口が70億人に達する。この日、市丸家に長男陸翔(りくと)が誕生し70億人目認定(この日に生まれた赤ちゃんは世界70億人目と認定される)。
18)	11月	先場所に続き日本人大関稀勢の里が誕生。
19)	12月	RSLは3チーム(グラスボーイズ、リーブス、トラックキーズ)が最後まで優勝争いを続けた中、最終試合を勝ってグラスボーイズが優勝。リーブスは0.5ゲーム差の2位(全8チーム参加)。

項目	展望
来季の試合予定	35年目のシーズンです。80試合以上を目標に設定します。 27試合18勝で、1500試合1000勝を達成します。記念の行事を催し、記念品を作製する予定です。

2011年(創部34年目シーズン)

2012年(平成24年)度 リーブス球団 今年の出来事・来季への展望 (全59試合)

日付	曜日	出来事
1) 3月3日	(土)	創設35年目シーズンの開幕。
2) 5月20日	(日)	大相撲夏場所、平幕旭天鵬が入門21年目で初優勝。初優勝としては史上最高齢。
3) 5月21日	(月)	世紀の天体ショー、金環日食が観察される。
4) 5月29日	(火)	メジャー10年目松井秀喜、2ヶ月遅れでレイズとメジャー契約。初先発2打席目ホームラン。しかし、7月26日(現地時間25日)戦力外通告。
5) 5月30日	(水)	東京ドーム 巨人対楽天戦 巨人杉内俊哉、ノーヒット・ノーラン達成。9回2アウトまでは完全試合。
6) 7月21日	(土)	当日の2試合目、小田南公園(11～13時) 対関西おっさんクラブ戦(RSL⑥) 創部1,500試合達成 。6対2と勝利で飾る。
7) 7月24日(現地時間23日)	(火)	マリナーズのイチロー、ヤンキースへ移籍発表。しかも同日のセーフコフィールドでのヤンキース戦より、マリナーズの対戦相手として出場。
8) 8月4日	(土)	当日の1試合目、小田南公園(11～13時) 対マンモーズ戦(RSL⑧) 25対0で勝利し 創部1,000勝達成 。
9) 8月18日	(土)	小田南公園 対3AS戦 1回裏先頭の山下(大)選手の放ったライト前へのシングルヒットがリーブス球団通算10,000安打目(※記録がわかる範囲で)のメモリアルヒット。
10) 8月		ロンドン五輪サッカー、女子は銀、男子は優勝候補のスペインを破るもメダルに届かず。
11) 8月		創部1,500試合と創部1,000勝達成記念のTシャツ完成。
12) 9月23日	(日)	大関日馬富士、横綱白鵬を破って2場所連続の全勝優勝。場所後に横綱昇進。
13) 9月		テキサス・レンジャーズ、13ゲーム差をひっくり返されてワイルドカードプレーオフへ。プレーオフにも敗退し、3度目の正直のワールドシリーズ制覇の夢が潰える。
14) 10月		イチローと黒田のヤンキース、アメリカンリーグ優勝決定戦敗退。
15) 12月		RSLは3チーム(トラッキーズ、グラスボーイズ、リーブス)が最後まで優勝争いを続けた中、残り2試合でマジック1としていたトラッキーズが勝って初優勝。リーブスは3位(全8チーム参加)が確定。

項目	展望
来季の試合予定	慢性的なメンバー不足と投手不足のため、50試合を目標に設定します。今季の反省を踏まえて、来季は2週間前までに人数が6～7人に達しない場合は、活動中止も考慮します。2週間前から対戦相手を探しますので、相手が見つからないリスクが高くなりますが、これまでになかった練習等を含めて活動したいと思います。

2012年(創部35年目シーズン)

2013年(平成25年)度 リーブス球団 今年の出来事・来季への展望 (全54試合)

日付	曜日	出来事
1) 3月2日~20日(現地時間19日) (土)~(水)		第3回WBC開催。日本は準決勝でプエルトリコに3対1で敗れ3連覇の夢がつかない。
2) 3月9日 (土)		リープス球団創設36年目シーズン開幕。しかし、3月はわずかに3試合と出遅れる。
3) 3月16日 (土)		大澤選手入団。
4) 4月3日(現地時間2日) (水)		レンジャーズダルビッシュ今季初登板で、9回2アウトまでパーフェクトピッチングも27人目の打者ゴンザレスにヒットを許し、あと1人で完全試合を逃す。
5) 4月26日 (金)		グランフロント大阪開業。
6) 4月27日 (土)		下田選手入団。
7) 5月5日 (日)		東京ドームにて、長嶋茂雄と松井秀喜に国民栄誉賞が授与される。
8) 6月11日 (火)		日本プロ野球機構が、統一球の仕様を秘密裏に飛びやすいものに変更していたことを発表。
9) 7月29日(現地時間28日) (月)		松井秀喜 Yankees と1日だけのマイナー契約で、Yankeesスタジアムにて引退試合。
10) 8月		猛暑と台風と豪雨の夏。
11) 8月9日 (金)		Kスタ宮城 楽天対ソフトバンク戦 楽天田中将大、開幕から16連勝の日本プロ野球新記録を打ち立てる。
12) 8月22日(現地時間21日) (木)		Yankeesイチロー、日米通算4000安打達成。
13) 8月22日 (木)		高校野球は、荒井監督率いる初出場の群馬県代表前橋育英高校が宮崎県代表延岡学園に4対3で勝利し初優勝。『エラーは起こるもの。如何にしてチーム全員でそのエラーをカバーするか』。まさしくリープスのセカンドのための言葉。
14) 9月8日(現地時間7日) (日)		2020年夏季オリンピックが、東京開催に決定。滝川クリステルがプレゼンテーションで用いた「お・も・て・な・し」が流行語年間大賞(2013年は4つ)の1つとなる。
15) 9月15日 (日)		ヤクルトバレンティン、1964年に王貞治が樹立した年間本塁打記録(55本)を49年ぶりに更新する56本目を左中間スタンドへ放り込み、本拠地神宮で日本プロ野球記録を樹立。その後、年間本塁打数を60本まで伸ばしMVPを獲得。日本プロ野球史上初となるリーグ最下位チームからのMVP選出。
16) 9月26日 (木)		楽天が球団創設9年目で初のリーグ優勝。開幕22連勝中のエース田中将大が抑えて登板し、見事胴上げ投手となる。田中将大は連勝を24まで伸ばし無敗でシーズンを終える。
17) 10月		ドラマ半沢直樹のセリフ「倍返し」(流行語年間大賞受賞)やホテルや旅館のメニュー偽装表示が話題となる。
18) 10月20日(現地時間19日) (日)		レッドソックス上原浩治、アメリカンリーグチャンピオンシップでMVPを獲得。
19) 10月31日(現地時間30日) (木)		レッドソックスが本拠地フェンウェイパークでは95年ぶりとなるワールドシリーズ制覇。守護神上原浩治が胴上げ投手に。
20) 11月3日 (日)		楽天が球団創設9年目にして本拠地Kスタ宮城で、巨人をくだして初の日本一。前日の第6戦、今季無敗の絶対的エース田中将大が160球を投げ意地の完投をするも12安打を打たれ、今季初の敗戦投手となり3勝3敗のタイで最終第7戦へともつれた。第7戦3対0と楽天リードで迎えた9回表、前日160球を投げたエース田中将大が抑えて登板し雨が降りしきる中、無失点に抑えリーグ優勝、CS制覇に続き日本シリーズでも見事胴上げ投手となる。東北のみならず日本全国に感動と勇気を与えた。
21) 11月16日 (土)		桜ノ宮 対ロマンチックス戦(RSL第11節) 3対1で勝利しグラスボーズとの最終決戦を待たずして、2009年以来4年ぶり2度目の優勝(全8チーム参加)。1リーグ総当たり戦では初の優勝。しかし、最終のグラスボーズ戦は0対1で敗れる。来年は倍返しだ！
22) 11月23日 (土)		楽天田中将大の3つの新記録(①同一シーズン24連勝 ②昨年8月26日から28連勝 ③ポストシーズンの2勝を加えた30連勝)がギネス世界記録に認定。

項目	展望
来季の試合予定	参加メンバー不足はまだ続くと思われませんが、投手の枚数増にやや明かりが見えてきました。無理のないところで50試合以上を目標に設定しますが、70試合は達成したいと思います。

2014年(平成26年)度 リーブス球団 今年の出来事・来季への展望 (全66試合)

日付	曜日	出来事
1) 3月8日	(土)	江野村選手、藤田選手、朴木選手入団。
2) 4月1日	(火)	消費税が5%から8%に増税。
3) 4月5日(現地時間4日)	(土)	ヤンキースへ移籍の田中将大、デビュー戦7対3でMLB初勝利。
4) 4月7日(現地時間6日)	(月)	ACミランへ移籍の本田圭佑、移籍後初ゴール
5) 4月26日	(土)	宮本投手、対Zurars戦で通算100勝達成。
6) 5月10日	(土)	球団ホームページへのアクセス数が10,000に到達。
7) 5月24日	(土)	小田南公園 対ぴっちーず戦 市丸(剛)投手、ノーヒットノーラン達成。
8) 6~7月		ワールドカップサッカーブラジル大会。ドイツが優勝。日本は1分2敗で予選敗退。
9) 8月23日	(土)	アマリーと23年(8513日)ぶりの対戦。前回の雪辱を果たしました。
10) 8月31日	(日)	全国高校軟式野球選手権で、中京高校 対 崇徳高校 戦が3日間に及ぶ延長50回の大熱戦。中京高校の勝利。
11) 9月5日	(金)	サッカーのアギーレジャパン初采配。対ウルグアイ戦、0対2で黒星発進。
12) 9月9日(現地時間8日)	(火)	錦織圭が全米オープンテニスで準優勝。
13) 10月1日	(水)	御嶽山噴火。
14) 10月4日	(土)	対ブレイブハーツ戦で、小田南公園での通算試合数、1000試合を達成。
15) 10月18日	(土)	阪神タイガースがクライマックスシリーズを制して、9年ぶりに日本シリーズ進出。
16) 10月23日	(木)	グリコ看板6代目登場。
17) 10月30日(現地時間29日)	(木)	ジャイアンツがワールドシリーズ優勝。ロイヤルズ青木、チャンピオンを逃す。
18) 10月30日	(木)	ソフトバンクホークスが日本シリーズ制覇。
19) 11月10日~20日	(土)~(水)	2004年以来となる日米野球開催。日本が勝ち越し。
20) 11月23日	(日)	横綱白鵬が優勝し、大鵬が持つ最多優勝回数記録の32回に並ぶ。
21) 11月29日	(土)	14戦13勝1敗でリバーサイドリーグ初の連覇(通算3度目の優勝)。
22) 12月3日	(水)	はやぶさ2打ち上げ成功。

項目	展望
来季の試合予定	参加メンバー数と投手の枚数が安定してきましたので、久しぶりに70試合以上を目標にします。今年は66試合消化しました。

2014年(創部37年目シーズン)

2015年(平成27年)度 リーブス球団 今年の出来事・来季への展望 (全64試合)

日付	曜日	出来事
1) 1月23日	(金)	横綱白鵬、33回目の優勝。横綱大鵬の優勝記録32回を塗り替える。
2) 3月2日	(月)	2019年日本開催の世界カップラグビーの試合会場決定。花園ラグビー場など11箇所。
3) 4月1日	(水)	選抜高校野球、敦賀気比が東海大四を3対1で下し、春夏通じて初優勝。北陸勢の優勝も春夏通じて初めて。
4) 4月18日	(土)	松垣選手入団。
5) 5月27日	(水)	5月場所で優勝した関脇照ノ富士の大関昇進が決定。平成生まれの力士として初の大関。
6) 7月6日(現地時間5日)	(月)	女子ワールドカップサッカーカナダ大会、決勝でアメリカに2対5で負けて準優勝。連覇ならず。
7) 8月13日(現地時間12日)	(木)	マリナーズ岩隈久志、ボルティモア・オリオールズ戦でノーヒットノーランを達成。
8) 8月20日	(木)	夏の高校野球、東海大相模が仙台育英を10対6で破り優勝。
9) 9月20日(現地時間19日)	(日)	ラグビーワールドカップイギリス大会、日本が34対32で強豪南アフリカを逆転で破り、歴史的勝利。
10) 10月1日	(木)	西武ライオンズ秋山翔吾、年間安打数を216として日本記録を打ち立てる。全144試合。(参考:イチローが210安打を記録した年は全130試合)。
11) 10月3日	(土)	球団創設1700試合達成。小田南公園にて8対3で勝利。勝利投手は松田選手。
12) 10月7日	(水)	NPB2015年シーズン終了。それぞれのリーグにて、ソフトバンク柳田悠岐、ヤクルト山田哲人がトリプルスリーを達成。
13) 10月10日	(土)	ガンバ大阪のホームグラウンド、市立吹田サッカースタジアム完成。
14) 10月17日	(土)	松田選手、同一シーズンに左右両打席で小田南公園で柵越えホームランを放つ。球団史上初であるが、おそらく日本の草野球(軟式)ではあまり例のない記録と思われる。ちなみに、プロ野球の記録を調べてみました。1試合で左右両打席ホームランの記録は2013年までの時点で、日本のプロ野球では17選手で延べ40回(そのうち日本人選手は6人で延べ15回)。メジャーリーグでは、104選手で延べ282回達成されている。しかし、それにプラスして、両投げデビューしたのは松田選手が世界初かも？
15) 10月22日	(木)	プロ野球ドラフト会議。関東一高のオコエ瑠偉外野手、はずれ1位で楽天に入団。ヤクルト真中監督がはずれくじを当たりと早とちりするハプニングもあった。
16) 10月24日	(土)	日本シリーズ、ソフトバンクがヤクルトを撃破して日本一連覇。
17) 10月31日	(土)	球団史上いや野球史上初?の記録誕生。同日2試合連続サヨナラ勝ちでサヨナラ打を放ったのは山下親子。おそらく、メジャーリーグのケン・グリフィー親子もボンズ親子も達成していない記録では？
18) 11月2日(現地時間1日)	(月)	ワールドシリーズ、ロイヤルズがメッツを破って優勝。ジャイアンツに移籍した青木はポストシーズン進出ならず。
19) 11月7日	(土)	フィギュアスケート、2シーズンぶり復帰の浅田真央がグランプリシリーズ中国大会で優勝。
20) 11月8日~21日	(日)~(土)	プレミア12第1回大会開催。日本は準決勝で韓国と対戦。8回終了まで3対0とリードしていたが、素人のような投手交代で9回に逆転を許して敗退。
21) 11月20日	(金)	元横綱の北の湖理事長、死去。
22) 12月5日	(土)	サッカーJ1のチャンピオンシップ決勝第2戦、サンフレッチェ広島 対 ガンバ大阪は1対1で引き分けたものの得点合計4対3で広島が総合優勝。

項目	展望
来季の試合予定	今季は70試合の予定を立てたが64試合で終了し、昨年より2試合少なかった。再度70試合に挑戦。
遠征	再来年の創部40周年目シーズンに合わせて、1泊2日の遠征を計画しますので、皆さん資金作りの準備を始めて下さい。

2015年(創部38年目シーズン)

2016年(平成28年)度 リーブス球団 今年の出来事・来季への展望 (全67試合)

日付	曜日	出来事
1)	1月3日 (日)	第92回箱根駅伝、青山学院大学が日体大以来39年ぶりとなる往復完全優勝を達成。
2)	1月11日 (月)	第94回全国高校サッカー選手権大会、下田選手の母校東福岡が國學院大學久我山を5対0で破り、17年ぶり3回目の優勝。
3)	1月31日 (日)	スキージャンプ男子のレジェンド葛西紀明、ワールドカップ個人488試合出場と世界選手権通算12大会出場の2つがギネス世界記録に認定。通算5つ目。
4)	2月17日 (水)	高校野球の名門PL学園、本年夏の大会を最後に硬式野球部を休部する方針であることが明らかに。
5)	2月19日 (金)	スキージャンプ女子ワールドカップ、高梨沙羅が今季12勝目を記録し2年ぶり3度目の総合優勝。日本人選手の総合優勝3回は複合の荻原健司に次ぎ史上2人目。
6)	3月8日 (火)	読売ジャイアンツが緊急記者会見し、高木京介投手が野球賭博に関与していたことを発表。
7)	3月25日 (金)	日本プロ野球(NPB)ペナントレース、セ・パ同時開幕。
8)	3月31日 (木)	第88回選抜高等学校野球大会、智辯学園(奈良県)が高松商業(香川県)を2対1のサヨナラゲームで下し、春夏通じ初優勝。
9)	4月2日 (土)	高原選手入団。
10)	4月16日 (土)	2004年アテネ五輪女子マラソン金メダリストで、日本最高記録(2時間19分12秒)の保持者でもある野口みずきが現役引退を発表。
11)	4月25日 (月)	2020年東京オリンピック・パラリンピックの大会公式エンブレム模倣騒ぎを受けて、新たに『組市松紋』が公式エンブレムとして選定された。
12)	5月8日～22日 (日～日)	関西学院大学出身の宇良が関取(十両)に昇進し、5月場所で10勝5敗の好成績を挙げる。
13)	5月22日～24日(現地時間21日～23日) (日～(火)	MLB3000本安打を目指すイチロー、この3日間で4安打、2安打、4安打と神がかり的に打ちまくり、3000本安打まで残り40本とする。
14)	5月29日(現地時間28日) (日)	ダルビッシュ、トミージョン手術から復帰。対パイレーツ戦 5対2で復帰登板を勝利で飾る。
15)	6月4日 (土)	重入選手入団。
16)	6月16日(現地時間15日) (木)	イチロー、パドレス戦の9回の第5打席に右翼線2塁打を打ち、日米通算安打数を4257本(日本:1278本、アメリカ:2979本)とし、ピート・ローズの持つ大リーグ歴代最多4256安打を抜く。
17)	6月24日 (金)	ハンマー投げの鉄人室伏広治、第100回日本陸上選手権開催中の名古屋市で「体力の限界」を理由に現役引退を表明。
18)	7月23日 (土)	マツダスタジアム 広島対阪神戦 広島東洋カープ黒田博樹、勝利投手となり日米通算200勝(日本:121勝、アメリカ:79勝)を達成。
19)	7月31日 (日)	第58代横綱千代の富士がすい臓がんのため急逝。61歳。
20)	8月6日(現地時間5日) (土)	リオデジャネイロオリンピック開幕。
21)	8月8日(現地時間7日) (月)	イチロー、ロッキーズ戦の第4打席にライトフェンス直撃の3塁打を打ち、MLB史上30人目の3000本安打を史上最速で達成。達成後のベンチでサングラスの下からイチローの目にも涙。
22)	8月21日 (日)	第98回全国高等学校野球選手権大会、作新学院(栃木県)が北海(北海道)に7対1で勝利し、1962年以来54年ぶり2回目の優勝。
23)	9月10日 (土)	東京ドーム 巨人対広島戦 4対6で広島が勝利し25年ぶり7度目のセ・リーグ優勝を決める。
24)	9月28日 (水)	西武ドーム 西武対日本ハム戦 0対1で日本ハムが勝利し、ソフトバンクと最大11.5ゲーム差をひっくり返して4年ぶり7度目のパ・リーグ優勝を決める。
25)	10月16日 (日)	札幌ドーム 日本ハム対ソフトバンク戦(CS第5戦) 日本ハム大谷投手、日本最速の165キロをマーク。
26)	10月29日 (土)	日本シリーズ、日本ハムが4勝2敗で広島を下し、10年ぶり3度目の日本一。7戦目に予定の黒田対大谷の対戦は実現せず黒田は引退。
27)	11月3日(現地時間2日) (木)	MLBワールドシリーズ、カブス対インディアンスは第7戦までもつれ、第7戦は8対7のルーズベルトゲームでカブスがワールドシリーズ制覇。1945年にかげられたヤギ(マーフィー)の呪いが解ける。
28)	11月15日 (火)	横綱白鵬、史上3人目(元大関魁皇の1047勝、元横綱千代の富士の1045勝)の通算1000勝を大相撲史上最速の16年目、31歳で達成。
29)	11月26日 (土)	小田南公園 対ロマンチックス戦(RSL第14節) 1対1で引き分けたものの勝率で辛うじて3位決定。来季は巻き返しを図る。

項目	展望
来季の試合予定	今季は予定の70試合に3試合届かず。創部40年目の来季は100試合をやってみたいが、現実的には70試合か。
遠征	創部40年目の来シーズンに合わせて、泊りがけ遠征をしたい。

2016年(創部39年目シーズン)

2017年(平成29年)度 リーブス球団 今年の出来事・来季への展望 (全39試合)

日付	曜日	出来事
1) 1月3日	(火)	第93回箱根駅伝、青山学院大学が3連覇達成。
2) 1月21日	(土)	大相撲初場所、大関稀勢の里が14日目で初優勝決定(最終14勝1敗)。場所後に、日本出身者として19年ぶりの横綱に昇進。
3) 2月24日	(金)	日本政府と経済界が提唱し、毎月末金曜日は15時に仕事を終えることを推奨するプレミアムフライデーが開始されるも効果の程は??
4) 3月6日~23日(現地時間22日)	(月)~(木)	第4回WBC開催。日本は準決勝でアメリカに1対2で敗れ、2大会続けて準決勝敗退。
5) 3月26日	(日)	第89回選抜高等学校野球大会第7日目の第2試合「福岡大大濠対滋賀学園」と続く第3試合「福井工大附属福井対高崎健康福祉大学高崎」はいずれも延長15回で決着が付かず、大会史上初の2試合連続引き分け再試合となった。
6) 4月10日	(月)	女子フィギュアスケートの浅田真央が引退を発表。
7) 5月26日	(金)	女子ゴルフの宮里藍が今季限りでの引退を発表。
8) 6月8日	(木)	メットライフドーム 西武対巨人戦 13対2で西武が勝利し、巨人は球団ワースト記録を更新する13連敗となった。
9) 7月2日	(日)	最年少プロ棋士、藤井聡太四段14歳が佐々木勇気五段に敗れ公式戦での連勝記録が29でストップ。29連勝は歴代最多記録で、約30年ぶりの記録更新。
10) 7月21日	(金)	大相撲名古屋場所、横綱白鵬が大関高安に勝利し通算勝ち星を1048勝として、魁皇の記録を抜いて歴代単独トップとなる。
11) 7月21日	(金)	神宮球場 ヤクルト対阪神戦 1対11でヤクルトが敗れ、泥沼の14連敗となった。
12) 9月3日	(日)	皇室の眞子さまが、同級生の小室圭と婚約を発表。
13) 9月9日	(土)	陸上男子100mで、桐生祥秀が9秒98を記録して日本人選手初の公認記録での9秒台を達成。
14) 10月26日	(木)	歴代最多111本の高校通算本塁打を放ち注目された清宮幸太郎は、ドラフト会議にて7球団競合の末、日本ハムが当たりくじを引く。背番号は21に決定。
15) 11月26日	(日)	大相撲九州場所、横綱白鵬が大台の40回目の優勝を果たす。
16) 11月29日	(水)	横綱日馬富士が、幕内・貴ノ岩への暴行問題の責任を取り引退を発表。
17) 12月8日	(金)	日本ハムの大谷翔平がポストティングシステムを利用して、大リーグのエンジェルスへの入団が決定。

項目	展望
来季の試合予定	今季は39試合でしたが、11試合が雨天中止のため企試合数は50。よって、年間30週でダブル平均で達成可能な60試合を目標とします。
遠征	普段の活動に集中するため、遠征の予定はありません。

2017年(創部40年目シーズン)

2018年(平成30年)度 リースス球団 今年の出来事・来季への展望 (全40試合)

日付	曜日	出来事
1)	1月3日 (水)	第94回箱根駅伝、青山学院大学が4連覇達成。
2)	1月4日 (木)	プロ野球中日、阪神、楽天で監督を務め、優勝3回、日本一1回の闘将星野仙一死去。
3)	1月27日 (土)	大相撲初場所、平幕栃ノ心が14日目目で2012年夏場所の旭天鵬以来、約6年ぶりの平幕優勝(最終14勝1敗)。ジョージア出身力士としては初。この場所を起点として、5月場所後に大関に昇進。
4)	2月9日～25日 (金)～(日)	平昌オリンピック開催。羽生結弦がフィギュアスケート男子では66年ぶりとなる連覇、スピードスケート500mで小平奈緒が金メダル、高木美帆はチームバシュートで金、スピードスケート1500mで銀、スピードスケート1000mで銅を獲得し、1大会で金銀銅の3種類のメダルを獲得。また「もぐもぐタイム」や「そだねー」などで話題となったカーリング女子は、男女を通じて初となる銅メダルを獲得。今大会は日本勢が躍進し、過去最高だった長野オリンピックの10個を上回る13個のメダルを獲得し、最多獲得数を更新した。
5)	3月30日(現地時間29日) (金)	エンゼルスへ移籍の二刀流大谷翔平、打者として開幕戦の対アスレチックス戦で8番DHでスタメン出場し、初打席初安打を放つ。
6)	4月2日(現地時間1日) (月)	エンゼルスへ移籍の二刀流大谷翔平、投手として対アスレチックス戦に先発し、6回3安打3失点6奪三振で白星デビュー。
7)	4月4日 (水)	第90回選抜高校野球大会、大阪桐蔭が智弁和歌山を5対2で下し、36年ぶり史上3校目のセンバツ連覇。
8)	4月27日 (金)	10年半ぶり3度目となる南北首脳会談が、板門店で行われる。
9)	5月2日 (水)	史上最多となる高校通算111本塁打を放った、日本ハムの怪物清宮幸太郎が、対楽天戦で6番DHで1軍デビュー。楽天岸から初打席で、センターフェンス直撃の2塁打を放つ。
10)	5月6日 (日)	日本大学と関西学院大学のアメフト定期戦において、日大選手が監督、コーチの指示で悪質タックルをして相手選手を負傷させ問題となる。タックルをした日大選手は謝罪会見を行いアメフトから退いてしまうも、新監督からの打診を受け10月3日にめでたく部に復帰を果たす。
11)	5月26日 (土)	高尾選手入団。
12)	6月12日 (火)	初の米朝首脳会談がシンガポールで行われる。
13)	6～7月	ワールドカップサッカーロシア大会。フランスが優勝。日本は大会直前にハリルホジッチ監督が解任され、西野朗が監督就任。下馬評は低かったが初戦のコロンビア戦で大迫勇也が決勝ゴールを決め2対1で勝利。「半端ないってー」のフレーズが流行る。その後、1勝1敗1分でセネガルと勝ち点で並ぶもフェアプレーポイントでわずかに上回り、2大会ぶりに決勝トーナメント進出。初のベスト8を駆け世界ランキング3位のベルギー相手に、後半開始早々に原口がゴール、その4分後には乾のゴールで2対0とリードするも同点に追い付かれ、後半のアディショナルタイムに決勝ゴールを許し敗退。ベスト16の壁を破れず。
14)	6月18日 (月)	週明けの通勤時間帯の7時58分、大阪府北部を震源とした大阪府北部地震が発生。マグニチュード6.1、最大震度6弱を観測。
15)	6月28日～7月8日 (木)～(日)	西日本を中心に北海道や中部地方など全国的に広い範囲で記録された、台風7号及び梅雨前線等の影響による集中豪雨(平成30年7月豪雨)により未曾有の被害が発生した。
16)	7～8月	7月23日に埼玉県熊谷市で、観測史上国内最高気温の41.1℃を記録するなど、今年は災害と認識されるほどの連日の猛暑であった。
17)	7月2日 (月)	フィギュアスケートの羽生結弦選手が、史上最年少で国民栄誉賞を受賞。
18)	7月21日 (土)	大相撲名古屋場所、関脇御嶽海が千秋楽を待たずに優勝決定。長野出身力士としては初の優勝。
19)	7月29日 (日)	台風12号が日本を東から西、西から南へ進む異例のコースをたどり、逆走台風とも呼ばれた。
20)	8月5日 (日)	バドミントン男子の桃田賢斗が世界選手権のシングルス金メダル獲得。オリンピック、世界選手権を通じて日本男子で初の金メダル獲得。
21)	8月21日 (火)	第100回全国高等学校野球選手権記念大会、大阪桐蔭が金足農業を13対2で下し、史上初の2度目春夏連覇。対戦した金足農業はエース吉田輝星を擁し、横浜や日大三と言った優勝候補を下して勝ち上がり、秋田県勢としては103年ぶりに決勝に進んだ。県立の農業高校の快進撃は、「カナノウ旋風」と称された。
22)	9月4日 (火)	台風21号が25年ぶりに「非常に強い」勢力で日本に上陸し近畿地方を直撃し、甚大な被害をもたらした。バックネットが倒れるなど小田南公園も大きな被害を受け、阪神大震災以来の一時使用中止となった。
23)	9月6日 (木)	3時7分に、北海道胆振地方中東部を震源とした北海道胆振東部地震が発生。マグニチュード6.7、最大震度は、震度階級で最も高い7を観測。管内のほぼ全域で電力が止まる「ブラックアウト」も発生し、道内全域で停電。
24)	9月9日(現地時間8日) (日)	全米オープンテニスの決勝で、大坂なおみがセリーナ・ウィリアムズを破り、日本人として初めて四大大会制覇。
25)	9月16日 (日)	平成の歌姫、安室奈美恵がこの日をもって芸能界を引退。プロ野球の各球場でも、この日限りで登場曲に安室奈美恵の曲を使用する球団が多数あった。
26)	9月26日 (水)	マツダスタジアム 広島対ヤクルト戦 10対0で広島が勝利し球団史上初の3連覇。セ・リーグでの3連覇は巨人以外では初。
27)	10月7日(現地時間も7日) (日)	大迫傑がシカゴマラソンで日本人初の2時間5分台となる、2時間5分50秒で3位となった。今年2月に設楽悠太が記録した日本記録を21秒上回った。
28)	10月21日 (日)	卓球の福原愛が現役引退をブログで発表。
29)	10月25日 (木)	プロ野球ドラフト会議、注目の大阪桐蔭根尾は中日、同藤原はロッテ、報徳学園小園は広島、金足農業吉田は日本ハムに、それぞれ1位指名される。
30)	11月13日(現地時間12日) (火)	大谷翔平が日本人では4人目で、イチロー以来17年ぶりのメジャー新人王獲得。打者として打率.285、本塁打22、打点61、盗塁10、投手としては4勝2敗、防御率3.31、奪三振63の成績を残す。22本塁打は、これまでの日本人メジャーと比較して打席数が圧倒的に少ない中で日本人メジャー1年目の最高記録。
31)	11月25日 (日)	大相撲九州場所、場所前に親方貴乃花の引退により、部屋が変わるなどした小結貴景勝が、史上6番目の若さで初優勝。
32)	11月30日 (金)	2019年5月1日に新天皇即位に伴い、1年限りの祝日とする法案が衆議院内閣委員会で可決。2019年の5月1日が祝日になることで、祝日法の規定で4月30日と5月2日が休日となるため、来年は4月27日からこどもの日の振替休日の5月6日まで10連休となる。また、即位礼正殿の儀が行われる来年10月22日も1年限りの祝日となる。

項目	展望
来季の試合予定	今季は40試合でしたが、来季はプラス10試合で50試合を目標とします。雨天中止がなければ、可能な数字です。

2018年(創部41年目シーズン)

2019年(平成31年・令和元年)度 リースス球団 今年の出来事・来季への展望 (全38試合)

日付	曜日	出来事
1)	1月3日 (木)	第95回箱根駅伝、東海大学が大会新記録で初の総合優勝。青山学院大学は5連覇ならず。
2)	1月7日 (月)	第98回全国高校ラグビー大会で大阪桐蔭が初優勝。昨夏の甲子園では野球部が日本一に輝いており、同じ高校が同一年度に甲子園と花園を制するのは史上初の快挙。
3)	1月10日 (木)	世界大会16連覇や個人戦206連勝を記録し、「霊長類最強女子」の異名を持つレスリング吉田沙保里が引退。
4)	1月16日 (水)	若乃花以来、19年ぶりの日本出身横綱の稀勢の里が「土俵人生において、一片の悔いもございません」と言う言葉を残し引退。
5)	1月26日(現地時間も26日) (土)	大坂なおみが、昨年の全米オープンに続き全豪オープンも優勝。四大大会2連勝で、大会後に日本勢初の世界ランク1位となった。
6)	3月21日 (木)	東京ドーム マリナーズ対アスレチックス戦後、日米通算4367安打を放ち、数々の金字塔を打ち立てたマリナーズのイチロー現役引退を表明。深夜に隣接するホテルでユニホーム姿のまま記者会見に臨み、「後悔などあるはずがない」と述べた。
7)	4月1日 (月)	平成に変わる新元号が発表され「令和」に決定し、5月1日0時より改元。他の候補として「英弘(えいこう)」「久化(きゅうか)」「広至(こうし)」「万和(ばんな)」「万保(ばんぼう)」が挙がっていた。天皇の生前退位は、江戸時代の光格天皇以来6代ぶりで約200年ぶり。
8)	4月3日 (水)	第91回選抜高校野球大会、東邦が習志野を6対0で下し、平成最初と平成最後の選抜での優勝校となった。
9)	4月27日～5月6日 (土)～(月)	5月1日に新天皇即位に伴い、1年限りの祝日となり、祝日法の規定で4月30日と5月2日が休日となるため、4月27日からこどもの日の振替休日の5月6日までGWが10連休となった。
10)	5月26日 (日)	大相撲夏場所で、平幕の朝乃山が富山県出身者では103年ぶり、三役未経験者では58年ぶりとなる平幕優勝を成し遂げ、令和初の優勝力士となった。
11)	6月8日(現地時間7日) (土)	サニブラウンが、全米大学選手権の男子100メートルの決勝で日本新記録となる9秒97をマーク。
12)	6月21日(現地時間20日) (金)	NBAのドラフト会議で、ゴンザガ大学の八村塁がウィザーズから1巡目で指名される。全体でも9位と言う異例の高評価。
13)	8月5日(現地時間4日) (月)	全英女子オープンで、渋野日向子が男女を通じて、42年ぶりに日本人史上2人目のメジャー優勝を飾った。
14)	9月14日 (土)	小田南公園 対マスターズアスレチックス戦 過去に6連敗は2度あったが創部42年目にして、初めて7連敗を喫しワースト記録を更新してしまった。
15)	9月20日～11月2日 (金)～(土)	ラグビーW杯で、日本は強豪国を次々と撃破し予選を全勝で通過し、史上初の8強入り。スローガンの「ONE TEAM」が流行語の年間大賞に選ばれた。
16)	10月1日 (火)	消費税10%がスタート。軽減税率により、食品は8%が維持される。また、2020年6月末までの期間限定で、キャッシュレス還元で2～5%の還元がある店舗もある。
17)	10月5日 (土)	10月5日 橘公園 対ロマンチックス戦(RSL第9節) 今季17敗目となり、最終的に16勝だったため、この試合に負けたことにより、創部4年目の1981年に全2試合で0勝2敗で負け越して以来38年ぶりに、シーズン負け越しが決定してしまった。
18)	10月22日 (火)	即位礼正殿の儀が行われ、1年限りの祝日となった。同日に開催予定だった祝賀御列の儀は、台風19号による甚大な被害を考慮して、11月10日に延期された。
19)	11月17日 (日)	第2回プレミア12開催。日本は決勝で前回覇者韓国に5対3で逆転勝利し、プレミア12初優勝。

項目	展望
----	----

来季の試合予定 通算2000試合まであと100試合ですので、その半分以上となる50試合以上を目標とします。人数が集まれば、可能な数字です。

2019年(創部42年目シーズン)

2020年(令和2年)度 リーブス球団 今年の出来事・来季への展望 (全31試合)

日付	曜日	出来事
1)	1月26日 (日)	大相撲初場所、幕尻徳勝龍が大関貴景勝を寄り切りで破って幕尻優勝を決める。
2)	3月11日 (水)	新型コロナウイルス感染拡大のため、選抜高校野球大会の中止が決定。
3)	3月24日 (火)	新型コロナウイルス感染拡大のため、東京オリンピック・パラリンピックが史上初めて1年程度の延期が決定。
4)	3月28日 (土)	飛垣選手入団。
5)	4月7日 (火)	新型コロナウイルス感染拡大のため、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、大阪府、兵庫県、福岡県の7都府県に緊急事態宣言を発出。4月16日には、全都道府県に対象地域を拡大。当初の予定では5月6日までであったが、一度は5月31日まで延長され、最終的に緊急事態宣言が解除されたのは5月25日であった。
6)	4月11日～6月20日 (土)～(土)	新型コロナウイルス感染拡大のため、活動を一時休止。尼崎市内の球場も、緊急事態宣言に伴い5月21日までは使用不可となった。
7)	5月20日 (水)	新型コロナウイルス感染拡大のため、選抜高校野球大会に続き夏の甲子園大会も中止が決定したが、6月10日に選抜に出場予定だった32校による甲子園高校野球交流試合を行うと発表された。
8)	6月19日 (金)	約3ヶ月遅れで、プロ野球が開幕。120試合制で行われ、交流戦やオールスター戦は中止。
9)	8月2日 (日)	大相撲7月場所、元大関経験者で一度は序二段まで陥落した照ノ富士が、返り入幕の場所で復活優勝。
10)	8月20日 (木)	藤井聡太が先月の棋聖戦に続き、王位戦でも勝利し史上最年少で二冠獲得と八段昇段。
11)	9月13日(現地時間12日) (日)	全米オープンの子シングルス決勝で、大坂なおみがアザレンカにセットカウント2対1のフルセットで逆転勝ちし、優勝した2018年の大会以来、2年ぶり2回目の優勝。
12)	9月16日 (水)	首相の連続在職日数が、歴代最長の2822日となった第2次安倍政権が幕を閉じ、新たに菅義偉内閣が発足。
13)	9月26日 (土)	猪名川公園 対カルチャーズ戦 1982年5月以来38年ぶりの使用。バックスクリーンへの柵越え満塁ホームランを含む、3本の柵越えが飛び交う中、宮本選手が4打席3併殺の珍記録。過去43年で1試合3併殺は、おそらく初めてでは！？
14)	11月1日 (日)	2度目の大阪都構想(大阪市を廃止し特別区を設置する)の住民投票は、賛成67万5829票(49.37%)、反対69万2996票(50.63%)と言う僅差で再度否決される。
15)	11月25日 (水)	ソフトバンクが巨人を相手に、史上初となる2年連続の4連勝で4年連続の日本一を決め、パ・リーグ球団が8年連続の日本一に。勝ったソフトバンクは、2018年の日本シリーズ第3戦から12連勝となった。

項目	展望
来季の試合予定	通算2000試合まであと69試合ですので、目標は69試合ですが、コロナの状況によっては30～50試合となる見込みです。

2020年(創部43年目シーズン)

2021年(令和3年)度 リーブス球団 今年の出来事・来季への展望 (全63試合)

日付	曜日	出来事
1)	1月3日 (日)	第97回箱根駅伝、駒澤大学が最終10区スタート時点で、首位の創価大学と3分19秒差あったが歴史的な大逆転で13年ぶりの総合優勝。
2)	1月21日(現地時間20日) (水)	大相撲を制し、ジョー・バイデン氏が第46代アメリカ大統領に就任。
3)	1月24日 (日)	大相撲初場所、平幕大栄翔が優勝。昨年の1月場所は平幕(幕尻)徳勝龍が優勝したが、2年連続で平幕優勝。
4)	1月30日 (土)	田中将大が2013年以来8年ぶりに、楽天に復帰。
5)	2月2日 (火)	節分が、1897(明治30)年2月2日以来124年ぶりに2月2日。ちなみに、節分が3日でないのは昭和59年(1984)2月4日以来37年ぶり。
6)	3月20日 (土)	重岡選手入団。
7)	3月28日 (日)	大相撲春場所、12勝3敗で関脇照ノ富士が優勝。大関を陥落し、一時は序二段まで番付を下げたが、21場所ぶりの大関復帰に花を添える史上最大のカムバックV。
8)	4月1日 (木)	第93回選抜高校野球大会、東海大相模が明豊を3対2で下し、2年ぶりに開催された選抜大会を制した。
9)	6月6日 (日)	陸上の山縣亮太が、布勢スプリント100m決勝で、9秒95の日本新記録を樹立し優勝。日本選手では、史上4人目の9秒台。
10)	7月14日(現地時間13日) (水)	エンゼルスの大谷翔平投手は1番DH兼先発投手で、史上初の球宴二刀流で勝ち投手にもなった。
11)	7月18日 (日)	大相撲名古屋場所千秋楽、横綱白鵬と大関照ノ富士が14戦全勝の相星決戦を白鵬が制し、史上最多を更新する45度目の優勝を16度目となる全勝優勝で飾った。敗れた照ノ富士は、14勝1敗の好成績で大関復帰後わずか2場所で、令和初の横綱昇進が決定。
12)	7月23日～8月8日 (金)～(日)	新型コロナウイルスの影響で1年延期された、東京オリンピック2020が緊急事態宣言下で開催される。自国開催の日本勢が奮闘し、史上最多の金メダル27個を含む58個のメダルを獲得した。
13)	7月24日 (土)	小田南公園 対ロコモティーバ戦 1対0で山下(大)投手が勝ち投手となり、創部44年目にして球団史上初の200勝投手誕生。
14)	9月25日 (土)	瀬戸公園 対タイガース戦 松田選手が今シーズン10本目(全て柵越え)のホームランを放ち、創部44年目にして球団史上初の2桁ホームランをわずか116打席目で達成。また同試合で、高尾選手は1試合3本のホームラン(全て柵越え)を放ち、これまた球団史上初の記録を達成。
15)	10月9日 (土)	猪名川公園 対カルチャーズ戦(ダブルヘッダー1試合目) 高尾選手が今シーズン10本目(全て柵越え)のホームランを放ち、2週間前の松田選手に続き、創部44年目で球団史上2人目の2桁ホームランを達成。先に達成した松田選手とほぼ変わらない120打席目で達成。
16)	10月19日 (火)	メットライフドーム 西武対日本ハム戦 日米通算170勝を挙げた平成の怪物、松坂大輔がこの試合限り背番号18をつけ引退登板。打者1人のみに登板するも四球。最速は118キロで全盛期の面影はなかった。これで、一大勢力であった松坂世代の現役選手は、ソフトバンクの和田のみとなった。
17)	10月27日 (水)	対象チームのロッテが楽天に敗れ1996年以来、四半世紀ぶりとなるオリックスのパリーグ優勝が決定。前日にはヤクルトがセリーグ優勝を決めており、セパ両リーグともに、前年最下位球団が優勝。セパ両リーグともに前年最下位からの優勝は、プロ野球史上初。ちなみに、ヤクルトもオリックスも2年連続の最下位からのVとなった。
18)	11月1日 (月)	2000年以来、21年ぶりに500円硬貨が刷新された。3代目となる新500円硬貨は、日本の通貨では初めて2色のデザインで、ドーナツ状の枠をはめ込む3層構造で、周囲のギザギザ部には世界初の技術が導入された。
19)	11月3日 (水)	遊撃手で667試合連続フルイニング出場(史上5位)、1939試合連続試合出場(史上2位)の記録を持つ平成の鉄人、ロッテ鳥谷敬が現役引退を発表。
20)	11月13日 (土)	将棋の藤井聡太三冠が4連勝で「竜王」を獲得し、「王位」「叡王」「棋聖」に加え4つ目のタイトルを獲得し、史上最年少となる19歳3ヶ月で四冠となり、羽生善治九段が22歳9ヶ月で達成した四冠の最年少記録を28年ぶりに塗り替えた。
21)	11月19日(現地時間18日) (金)	打者として46本塁打、100打点、26盗塁、3塁打は両リーグ最多タイの8本をマーク。投手としても9勝を挙げたエンゼルス大谷翔平が、ア・リーグMVPに満票で選出。日本人選手のMVPは、2001年のイチロー(当時マリナーズ)以来2人目で、満票での受賞はア・リーグでは2014年のマイク・トラウト以来の快挙。

項目	展望
来季の試合予定	今季は2016年以来久々に年間目標の60試合を消化。創部45年目の来季は70試合を目標とし、3月中に2000試合達成を目指す。
遠征	遠征予定はないが、創部2000試合達成記念行事を行いたい。

2021年(創部44年目シーズン)

2022年(令和4年)度 リーブス球団 今年の出来事・来季への展望 (全51試合)

日付	曜日	出来事
1) 1月3日	(月)	第98回箱根駅伝、青山学院大学が合計タイム10時間43分42秒の大会新記録で、2位の順天堂大学と10分以上の差をつける、まさに圧巻の独走で2年ぶり6度目の総合優勝。
2) 1月14日	(金)	オリンピックの体操で個人総合では2連覇、世界選手権で6連覇を果たした内村航平が都内で引退の記者会見。3月12日(土)引退イベントを開いて現役生活で最後の演技を披露。
3) 2月4日～24日	(金)～(日)	主将の高木美帆が4個のメダルを獲得するなど、日本は冬季五輪で最多の計18個(金:3、銀:6、銅:9)のメダルを獲得。日本選手団最年長のカーリング女子の石崎琴美(43歳)が銀メダル、最年少のスノーボード女子ビッグエアの村瀬心椛(ここも)(17歳)が銅メダルを獲得したことも話題となった。
4) 2月12日	(土)	将棋の藤井聡太が五冠達成。19歳6ヶ月での五冠達成は史上初で、羽生善治九段22歳10ヶ月の最年少記録を28年5ヶ月ぶりに更新した。
5) 3月31日	(木)	第94回選抜高校野球大会決勝は、大阪桐蔭対近江で昨年の夏の大会に続き、近畿勢対決となり18対1で、大阪桐蔭が4年ぶり4回目の優勝を果たした。
6) 4月1日	(金)	約140年ぶりに成年の定義が見直され、成年年齢が現行の20歳から18歳に引き下げ。
6) 4月1日	(金)	駄菓子子の「うまい棒」が、1979年の発売以来初めてとなる10円→12円に値上げ。
7) 4月10日	(日)	ZOZOマリンスタジアム ロッテ対オリックス戦 ロッテ佐々木朗希投手が28年ぶり16人目となる完全試合達成。この日は、初回から5回にかけ13者連続三振を奪い、64年ぶりに日本記録を更新。その後も三振を奪い続け、日本タイ記録となる19個の三振を奪った。また、翌週の4月17日の日本ハム戦での登板でも、8回終了まで完全試合ペースで史上初の2試合連続完全試合が期待されるも、疲労などを考慮し首脳陣の判断で8回で交代となった。これを皮切りに、2022年のプロ野球はノーヒットノーランイヤーとなり、ソフトバンク東浜、DeNA今永、オリックス山本、日本ハム ポンセが達成し、史上最多を記録した1940年以來82年ぶりに年間5度のノーヒットノーランが達成された。ちなみに、中日 大野も9回終了までノーヒットノーランを継続していたが0対0だったため、延長となり10回2アウトで記録が途切れた。
8) 4月16日	(土)	松島公園 対SAT戦 今季6試合目にして 創部2000試合達成 。19対7で勝利し記念試合を飾る。
9) 7月18日	(月)	2025年に大阪市此花区で、開催予定の国際博覧会(大阪・関西万博)の公式キャラクター名がミヤクミヤクに決定。
9) 7月19日	(火)	男子シングルとしては、66年ぶりとなるオリックス連覇を果たしたフィギュアスケートの羽生結弦が、プロ転向を表明。
10) 8月10日(現地時間9日)	(水)	エンゼルスの大谷翔平投手が、勝利投手となり同じシーズンでの「2桁勝利、2桁ホームラン」を達成。「野球の神様」と言われるベーブ・ルースが1918年に達成して以来、104年ぶり2人目の快挙。
11) 8月22日	(月)	第104回全国高等学校野球選手権大会、1998年の横浜高校以来、史上2校目の春夏夏全国3冠と史上初の3度目の春夏連覇に挑む大阪桐蔭に注目が集まったが、準々決勝で下関国際に敗退。仙台育英と下関国際が決勝まで勝ち進み、8対1で仙台育英が勝利し、深紅の大優勝旗が初めて東北の地に降り立った。仙台育英の須江監督の優勝インタビューでの「青春って、すごく密なので」が印象に残った。
12) 8月28日(現地時間27日)	(日)	マリナーズの会長付特別補佐兼インストラクターのイチローが、メジャーでは日本人選手初となる球団殿堂入りの式典が行われた。
13) 9月25日	(日)	大相撲秋場所、37歳10ヶ月の玉鷲が幕内優勝を果たし、2012年夏場所に37歳8ヶ月で優勝した旭天鵬の最年長優勝記録を更新した。また、7月場所の逸ノ城に続き2場所連続で平幕が優勝した。1991年(平成3年)の琴富士、琴錦が平幕で連続優勝して以来31年ぶりの記録となった。
14) 10月2日	(日)	楽天生命パーク宮城 楽天対オリックス戦 2対5でオリックスがシーズン最終戦で勝利。そのわずか数分後、前日まで首位だったソフトバンクがロッテに敗れ、オリックスが史上初2年連続のマジック点灯なしでの優勝を決めた。最終戦での優勝決定はパリーグ史上6度目で、オリックスは1968年の阪急時代以来、54年ぶり。
15) 10月3日	(月)	神宮 ヤクルト対DeNA戦 ヤクルト村上宗隆がシーズン最終戦の最終打席で、王貞治の持つ日本人選手最多記録を塗り替える歴代トップの56号を放つ。また、史上最年少22歳での三冠王も獲得。
16) 10月6日(現地時間5日)	(木)	エンゼルスの大谷翔平がアスレチックスとの今季最終戦に「3番・投手兼DH」で投打同時出場し、初回を3者凡退に抑えメジャー史上初の規定投球回(162回)と規定打席(502打席)のダブル到達。
17) 10月16日	(日)	本来であれば、1月1日元日の決勝が恒例であるがW杯カタール大会が11月開催のため大幅に前倒しとなりこの日、天皇杯決勝が行われた。決勝はヴァンフォーレ甲府対サンフレッチェ広島。ヴァンフォーレ甲府は今季J2で18位(全22チーム)であったが、コンサドーレ札幌、サガン鳥栖、アビスパ福岡、鹿島アントラーズと次々にJ1チームを倒し決勝まで勝ち進んだ。決勝はPK戦までもつれる熱戦となり5対4(PKスコア)でヴァンフォーレ甲府が勝利し、結果J1勢に5連勝となり、2011年のFC東京以来2チーム目となるJ2チームの優勝を成し遂げ、史上最大の下剋上となった。
18) 10月21日	(金)	外国為替市場の円相場は一時1ドル150円台後半に下落し、約32年ぶりの円安水準を更新。
19) 11月12日	(土)	小田南公園 対大阪閃光戦 1983年11月3日の初使用から小田南公園で1233試合目の試合が、公式記録をつける小田南公園での最終戦。7回裏に1点を取り同点に追い付き迎えた延長8回裏、1アウト満塁で山下(雅)選手が押し出しの四球を選んで5、対4でサヨナラ勝ち。最終戦に相応しい好ゲームとなった。
20) 11月19日	(土)	淀川河川公園 西中島 No.1 対ナインリズズ戦(ダブルヘッダー2試合目) 2021年9月25日に高尾選手が1試合3本塁打はあったが、重岡選手が球団史上初となる3打席連続ホームラン(全て柵越え)を放ち、球団タイ記録の1試合8打点も記録。4打席目は満塁の場面で打席が回り、4打席連続ホームランと1試合最多打点の更新が期待されたが結果はショートフライ。
21) 11月22日～12月19日(現地時間11月21日～12月18日)	(火)～(日)	中東で初めて開催されるサッカーの世界カップ、カタール大会は厳しい暑さを考慮して、1930年に大会が始まって以来、初めての11月開幕。グループリーグ初戦、ドーハにあるハリファ国際スタジアムで優勝候補に挙げられているドイツに2対1で勝利し、大金星をあげ1993年のワールドカップ予選で終了間際に同点に追い付かれ、ワールドカップ初出場を逃した「ドーハの悲劇」から29年後に「ドーハの歓喜」となった。次戦のコスタリカには0対1で敗れるも、第3戦は初戦と同じハリファ国際スタジアムで、優勝候補に挙げられているスペインに2対1で勝利し、またしても大金星をあげ再び「ドーハの歓喜」となった。迎えた決勝トーナメント初戦は、前回のロシア大会で準優勝のクロアチア。この大会初めて先制するも追い付かれ、試合は延長でも決着がつかずPK戦の末、惜しくも敗戦。目標とする史上初のベスト8を掛けた試合で、4度目の挑戦でも壁は越えられず。
22) 11月27日	(日)	大相撲九州場所千秋楽、本割で前頭筆頭の高安に前頭9枚目の阿炎が勝利し、同じく3敗だった大関貴景勝の3人が並んで巴戦による優勝決定戦となり、阿炎が2連勝して平幕優勝を果たした。これで史上初めて、3場所連続の平幕優勝となった。
23) 11月27日	(日)	猪名川公園 対ジャージーズ戦 重岡選手が先頭打者ホームランを含む2本のホームランを放ち、年間15本塁打となり、球団の年間最多ホームラン記録を更新。昨年創部44年目にして初めて2桁ホームランが記録されたが早くも年間最多記録を更新。重岡選手、高尾選手、松田選手は2年連続、下田選手は初の2桁ホームランを記録し合計4選手が2桁となり、年間ホームラン2桁時代に本格突入。

項目	展望
来季の試合予定	高齢者の増加、また人数の集まり状況を踏まえ、少し減らして50試合以上とする。

2023年(令和5年)度 リーブス球団 今年の出来事・来季への展望 (全45試合)

日付	曜日	出来事
1) 1月3日	(火)	第99回箱根駅伝、駒澤大学が往路、復路ともに制し完全優勝で史上5校目の大学3冠達成。
2) 1月23日	(月)	車いすテニスの世界王者で、全ての四大大会とパラリンピックで優勝する「生涯ゴールデンラム」を達成するなど、数々の偉業を成し遂げた国枝慎吾が現役を引退。3月17日には国民栄誉賞が授与された。
3) 3月22日(現地時間21日)	(水)	第5回WBC、ローンデポ・パークで行われたメキシコとの準決勝は4対5の1点ビハインドで9回裏を迎えるも、ここまで不振だった昨年の三冠王の村上宗隆がノーアウト1・2塁から2点タイムリー2塁打を打ち、6対5で劇的なサヨナラ勝ち。同球場で行われたアメリカとの決勝では、3対2と1点リードで迎えた9回表、日本のマウンドには大谷翔平、2アウトランナーなしとなって迎えるバッターはエンゼルスでチームメイトのマイク・トラウト。結果、大谷翔平が空振り三振で打ち取り2009年以来14年ぶりにWBC優勝。世界最高峰の舞台で奇跡のフィナーレを迎えた。試合前のミーティングで大谷翔平が発した「憧れるのをやめましょう」が話題となった。
4) 4月8日	(土)	津村選手入団。
5) 5月8日	(月)	新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけを結核やSARS等と同様の2類相当から季節性インフルエンザ等と同様の5類に変更。
6) 6～8月		各地で最高気温30℃以上の真夏日、最高気温35℃以上の猛暑日が連日観測され、東京では7月6日～9月7日の64日間真夏日が続き、2004年の40日を超えて過去最長を記録、猛暑日も22日と過去最多を更新。記録的な暑さのため、特に8月は1試合だけでも過酷な環境であった。真夏に1日5試合をやっていた15年ほど前が懐かしい。ただ、その頃とは気温があまりにも違い過ぎる。今年は11月なっても夏日が計測された。
7) 8月23日	(水)	第105回全国高等学校野球選手権大会、慶応が夏連覇を目指す仙台育英を8対2で破り、1916年以来107年ぶりの優勝。髪型は丸刈りではなく長髪で、選手の自主性を重んじるなど高校野球の新しい姿につながる優勝となった。また今大会から暑さ対策として、5回終了時に10分間、選手らはクーラーが設置されたクーリングスペースで休息を取るクーリングタイムが導入された。
8) 9月2日	(土)	バスケットボールワールドカップ(男子)において、順位決定リーグ最終戦でカーボベルデに80対71で勝利し、今大会のアジア勢最上位を確定させて来年のパリ五輪出場権を獲得。1976年モントリオール五輪以来、48年ぶりに自力で出場権を獲得する快挙。
9) 9月14日	(木)	甲子園 阪神対巨人戦 4対3で阪神が勝利し、9月に入って負けなしの11連勝で、2003年以来18年ぶり6度目の優勝を球団史上最速で決める(これまでの最速は2003年の9月15日)。岡田監督は就任直後から選手にプレッシャーがかからないように「優勝」とは言わず、「アレ」を目標にと言い続け、この日の優勝インタビューでようやく「優勝」と言う言葉を口にしました。ベンチでよく口にしているパインアメ(パインアレ)も話題となった。
10) 9月20日	(水)	京セラドーム大阪 オリックス対ロッテ戦 6対2でオリックスが勝利し、パ・リーグ3連覇を達成した。2021年と2022年はマジックが点灯しないまま優勝を果たしたが、今季は8月にマジックを点灯させ、独走状態を保ったまま歓喜のゴールテープを切る、まさに盤石と呼べる戦いぶりで優勝を飾った。
11) 10月2日(現地時間1日)	(水)	アメリカン・リーグのレギュラーシーズン全日程が終了。その結果、44本塁打を放ったエンゼルス大谷翔平が、日本人そしてアジア人として初めて、メジャーリーグでホームラン王に輝く歴史的快挙を達成。
12) 10月11日	(水)	永瀬拓矢王座に藤井聡太七冠が挑戦した第71期王座戦五番勝負で、シリーズを3勝1敗で制し王座を獲得するとともに、将棋界に存在する八大タイトルの全てを制覇し史上初の八冠を達成。
13) 10月28日～11月5日(土)～(日)		プロ野球日本シリーズは、59年ぶりの関西ダービーとなり「阪神なんば線シリーズ」とも呼ばれた。白熱した好ゲームが続き、第6戦までの両チームの合計得点が23対23で、3勝3敗で第7戦を迎えた。奇跡的にも59年前の関西ダービーでも、第6戦までの両チームの合計得点が19対19であった。第7戦を7対1で阪神が制し、1985年以来38年ぶりとなる日本一となった。
14) 11月4日	(土)	北加賀屋公園 対グラスボイズ戦 高尾選手が今シーズン20本目(19本が柵越え)のホームランを放った。2021年に創部44年目で球団史上初の2桁本塁打が達成されたが、創部46年目にして早くも球団史上初の20本塁打を達成。驚くことに、94打席目で20本塁打を達成した。
15) 11月17日(現地時間16日)	(金)	打者として打率.304、44本塁打、95打点の成績で本塁打王のタイトルを獲得、投手としては23試合、132イニングを投げて、10勝5敗、防御率3.14の成績を残したエンゼルスの大谷翔平が、メジャー史上初となる2度目の満票でMVPを獲得する快挙(2021年も満票でMVP)。

項目	展望
来季の試合予定	高齢者の増加、また人数の集まり状況を踏まえ、40試合以上を目標とする。

2023年(創部46年目シーズン)